

Network Storage System

Windows Storage Server ソフトウェアマニュアル

Logitec

目次

重要なお知らせ	1
第1章 セットアップ	2
1. 1 セットアップ	2
1. 1. 1 電源の投入	2
1. 1. 2 管理 Web UI へのアクセス	3
1. 1. 3 ネットワークの設定	8
第2章 クライアントPCからのアクセス	13
第3章 Web UI 管理機能	17
3. 1 画面の説明	17
3. 2 開始メニュー	18
3. 2. 1 ツアーを体験	18
3. 2. 2 サーバー名の設定	19
3. 2. 3 管理者パスワードの設定	20
3. 2. 4 規定ページの設定	21
3. 3 状態メニュー	21
3. 4 ネットワークメニュー	22
3. 4. 1 識別	22
3. 4. 2 グローバル設定	23
3. 4. 3 インターフェイス	25
3. 4. 4 管理者	30
3. 4. 5 管理 Web サイト	31
3. 5 ディスクメニュー	32
3. 5. 1 ディスクとボリューム	32
3. 5. 2 ディスククォータ	36
3. 5. 3 シャドウコピー	40
3. 6 ユーザーメニュー	46
3. 6. 1 ローカルユーザー	46
3. 6. 2 ローカルグループ	52

3. 7	共有フォルダ	55
3. 7. 1	フォルダ	55
3. 7. 2	共有	67
3. 7. 3	共有プロトコル	69
3. 8	メンテナンスメニュー	82
3. 8. 1	日付 / 時刻	83
3. 8. 2	シャットダウン	84
3. 8. 3	ログ	86
3. 8. 4	バックアップ	93
3. 8. 5	リモートデスクトップ	97
3. 8. 6	通知電子メール	98
3. 8. 7	言語	99
3. 8. 8	UPS	100
3. 9	ヘルプメニュー	101

第4章 Windows Update によるセキュリティパッチのインストール 102

第5章 補足事項..... 107

5. 1	使用できる文字について	107
5. 2	トラブルシューティング	108
5. 3	アプリケーションのインストール	109
5. 4	UPS との接続が出来ない場合の対処方法	110

重要なお知らせ

- ・本製品は、Windows Server 2003 ベースとなっているため Windows 用のソフトウェアのインストールをすることができますが、Windows Store Server 2003 での動作確認済のソフトウェア以外のインストールは行なわないようにしてください。動作確認が取れていないソフトウェアをインストールされた場合には製品の動作保証ができなくなります。また、インストールしたことにより不具合等が発生した場合には弊社では保証しかねますのであらかじめご了承ください。

第1章 セットアップ

1

1. 1 セットアップ

1. 1. 1 電源の投入

■電源の投入

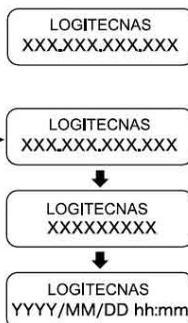
- ① 本製品の電源スイッチを軽く1回だけ押してください。電源スイッチの場所については「ハードウェアマニュアル」を参照してください。

[LSS-MRWシリーズ]

- ② 電源表示ランプが点灯し、液晶パネルに「System Booting」と表示されます。しばらくすると液晶パネルに右のように表示され、システムの起動が完了します。

[LAS-MRWシリーズ、LHD-NASWシリーズ]

- ② 電源表示ランプが点灯し、液晶パネルに「System starting. Please wait…」と表示されます。しばらくすると液晶パネルに右のように表示され、システムの起動が完了します。



※ 上段にサーバー名、下段にIPアドレス/MACアドレス / 日時が5秒間隔で表示されます。

- ③ 液晶パネルに本製品のコンピュータ名とIPアドレス、MACアドレスと日付・時刻が表示されます。本製品の管理・設定の際はIPアドレス等をこの液晶パネルでご確認ください。



ご注意

液晶パネルが「System Starting. Please wait…」または「System Booting」のまま5分以上ハードディスクドライブにアクセスがない場合は、いったん電源スイッチを4秒以上長押ししてOFFにしてから約1分待った後に再度電源を投入してください。

1. 1. 2 管理 Web UI へのアクセス

本製品の管理、設定はインターネットエクスプローラを利用して「Web UI」と呼ばれる管理画面から行います。初期設定のためにまずは Web UI へアクセスします。

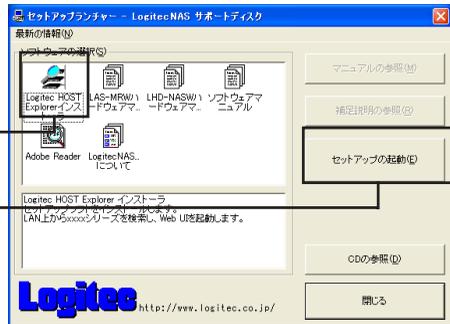
1. Logitech Host Explorer のインストール

はじめに「Web UI」へアクセスするためのアクセスソフト「Logitech Host Explorer」をクライアントパソコンにインストールします。

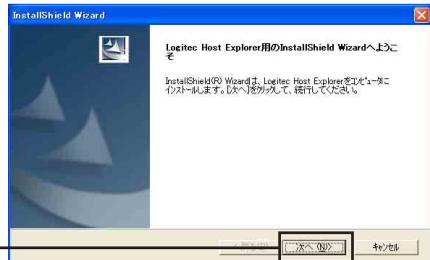
- ① クライアントパソコンに本製品付属の「Logitech NAS サポートディスク (CD-ROM)」を挿入します。しばらくするとセットアップランチャーが起動するので、「Logitech HOST Explorer」のアイコンをクリックして選択状態にして、「セットアップの起動」ボタンをクリックしてください。

1. このアイコンをクリック

2. 「セットアップの起動」をクリック



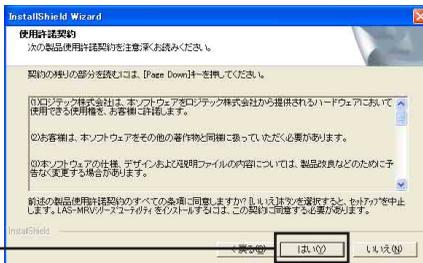
- ② インストールウィザードが起動し、以下の画面が表示されます。「次へ」ボタンをクリックしてください。



「次へ」をクリック

- ③ 「使用許諾契約」の画面が表示されます。内容を確認し、同意される場合は「はい」ボタンをクリックしてください。

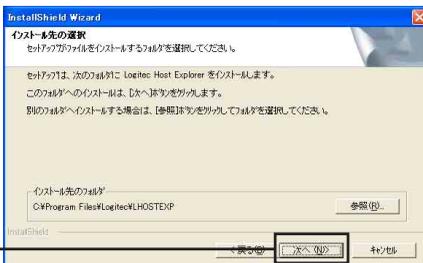
「はい」をクリック



※ 「いいえ」を選択された場合、インストールは中断されます。

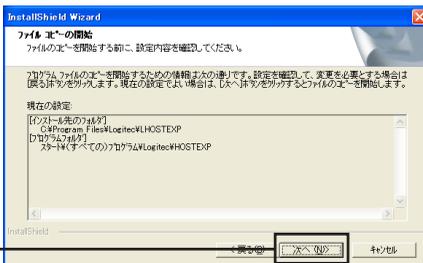
- ④ インストール先のフォルダを選択する画面が表示されます。特に問題のない場合はそのまま「次へ」ボタンをクリックしてください。

「次へ」をクリック



- ⑤ 右の画面が表示されます。「次へ」ボタンをクリックしてください。

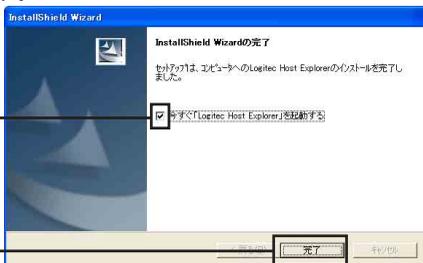
「次へ」をクリック



- ⑥ インストールが実行され、終了すると以下の画面が表示されます。「今すぐ「Logitech Host Explorerを起動する」のチェックボックスにチェック「レ」が入っている状態で、「完了」ボタンをクリックしてください。以上で「Logitech Host Explorer」のインストールは終了です。

チェックが入っていることを確認

「完了」をクリック



2. 管理 WebUI へのアクセス

① 「Logitec Host Explorer」はインストールが終了すると、自動的に起動します。

※いったん、「Logitec Host Explorer」を終了後、再度起動する場合は、「スタート」－「(すべての) プログラム」－「LOGITEC」－「Logitec Host Explorer」－「Logitec Host Explorer」と選択してください。

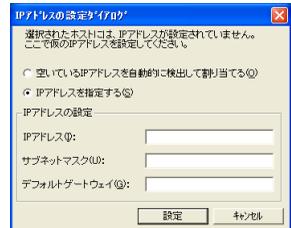
画面上に現在ネットワーク上で稼働中のNASが表示されます。



※もし、表示されない場合は「再検索」をクリックしてください。それでも表示されない場合は本製品もしくはクライアントパソコンのネットワーク接続が正しいか確認してください。

② 設定するNASを選択します。画面上に複数表示された場合は、設定する本製品前面の液晶パネルに表示されている情報(ホスト名、IPアドレス、MACアドレス)とを見比べて選択してください。

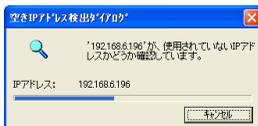
③ Web UI 起動をクリックし、Web UI を起動します。このとき本製品にIPアドレスが登録されていない場合は、IPアドレスの設定ダイアログが表示されるので、IPアドレスとサブネットマスクに値を入力し、「設定」ボタンを押します。



ご注意

- ・サブネットマスクを正しく入力しないと本製品の動作に支障をきたす場合がありますので、ご注意ください。
- ・プロキシサーバを使用する設定になっている場合はプロキシサーバを無効にしてください。

設定したIPアドレスが、ネットワーク上で使用されていないかチェックします。

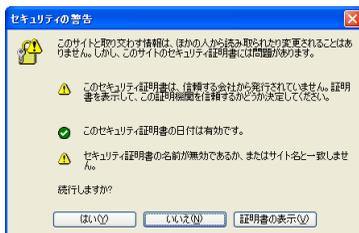


設定したIPアドレスがすでに使用されていた場合、エラーメッセージが表示されますので、「OK」をクリックし、再度③の画面で正しいIPアドレスとサブネットマスクを入力します。



設定したIPアドレスが他で使用されていない場合、本製品に設定されます。

- ④ セキュリティの警告メッセージが表示されますので、「はい (Y)」をクリックして先に進みます。



- ⑤ 管理者のユーザー名とパスワードの入力を求められますので、管理者名とパスワードを入力します。管理者名とパスワードのデフォルトは以下のとおりです。



管理者名 : admin
パスワード : admin

- ⑥ 自動的にインターネットエクスプローラにて Web UI が起動します。



ご注意

- ・ IPアドレスで管理Web UIにアクセスする際にはクライアントパソコンのインターネットブラウザの設定で本製品のIPアドレスを信頼済みのサイトとして登録してください。(尚、Logitech Host Explorerから管理Web UIを起動するとIPアドレスでのアクセスになります。)
- ・ WebUIにIPアドレスでアクセスすると、一部機能が正常に動作しない場合があります。その際はサーバー名でアクセスしなおして再度お試しください。

参考

- ・ DHCPサーバーが稼働している環境でご使用の場合、もしくは既に固定IPアドレスを本製品に登録している場合は、下記の方法でも管理画面Web UIにアクセスできます。
本製品前面の液晶パネルに表示されているIPアドレスを確認し、インターネットエクスプローラを起動し、アドレス(D)に下記URLを入力します。

`https:// 本製品のサーバー名又はIPアドレス:8098/`

参考

Web UIのポート番号はデフォルトでは以下の通りになっています。

80ポート : このポートではWeb UIは動作しません。

(アクセスはできます)

8099ポート: このポートではセキュリティをかけないでWeb UIが実行できます。※ポート番号は設定により変更可能です。

8098ポート: このポートではセキュリティがかかった状態でWeb UIを実行できます。特に問題がなければこのポートでアクセスしてください。

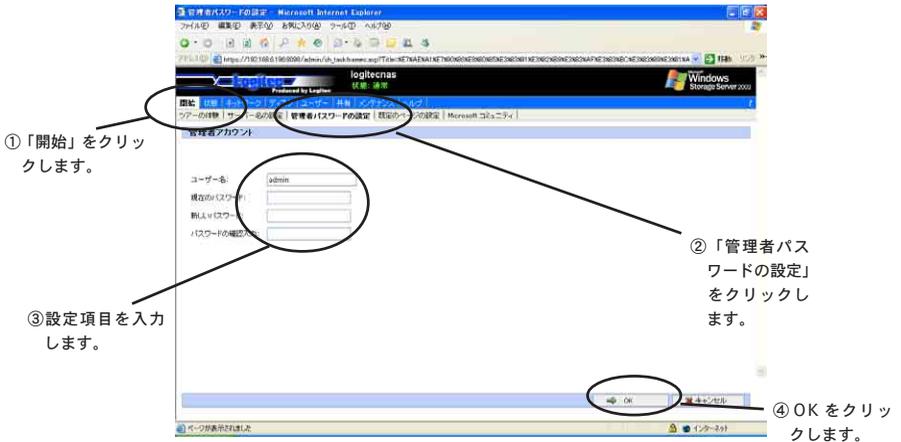
※ポート番号は設定により変更可能です。

1. 1. 3 ネットワークの設定

管理画面 Web UI でネットワーク関連の初期設定をします。ここでは導入時に必要な設定のみを説明します。その他の設定については第 3 章をご参照ください。

■ 管理者パスワードの変更について

出荷時状態では管理者名が「admin」で登録されており、パスワードは「admin」が登録されています。セキュリティのため管理者のパスワードは必ず変更してください。



Web UI 管理画面の「開始」メニューより「管理者パスワードの設定」をクリックしてください。管理者アカウント設定画面が表示されます。

- ・ ユーザー名
現在登録されている管理者名が表記されています。
- ・ 現在のパスワード(半角英数字)
- ・ 新しいパスワード(半角英数字)
- ・ パスワードの確認入力

全ての入力が完了したら「OK」をクリックして設定内容を確定します。

※ ユーザー名には大文字小文字の区別はありませんが、パスワードは大文字小文字を区別します。



重要なご注意

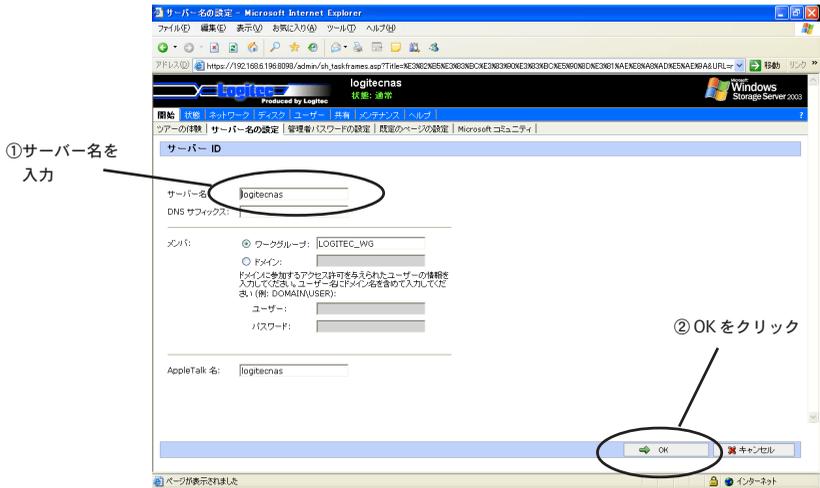
- ・ 管理者パスワードを忘れると本製品を管理することができなくなります。(弊社テクニカルサポートでも対応いたしかねます。) 管理者パスワードは管理者が大切に管理してください。
- ・ ユーザー名、パスワードには全角文字を使用しないでください。管理画面にアクセスできなくなります。

■サーバー名の変更について



サーバー名の設定をクリック

Web UI管理画面の「開始」のメニューから「サーバー名の設定」を選択します。ここの「サーバー名:」の欄の名称を変更します。このサーバー名はLAN上に同じ名称が存在しないように注意して設定を行ってください。

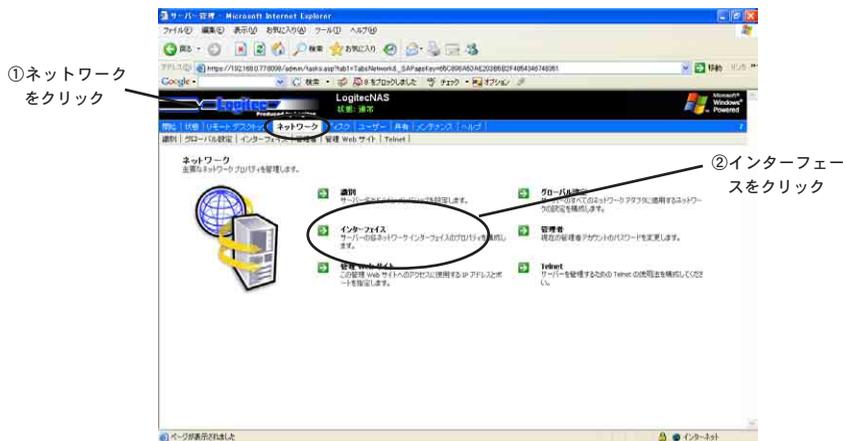


全ての入力が完了したら「OK」をクリックして設定内容を確定します。

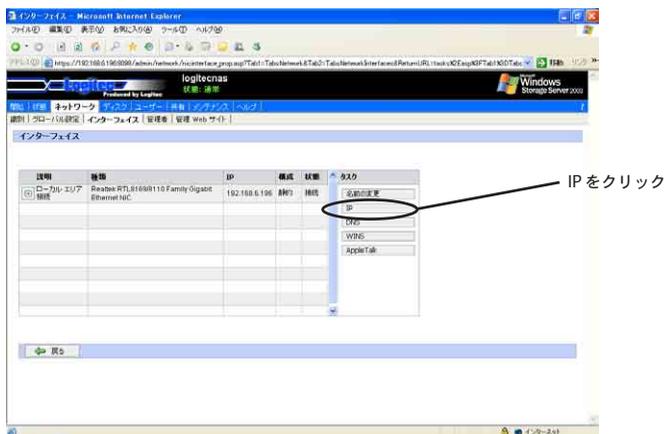
■ TCP/IP 設定について

この設定はDHCPサーバーが稼働している環境にてご使用される場合には、特に設定を行う必要はありません。

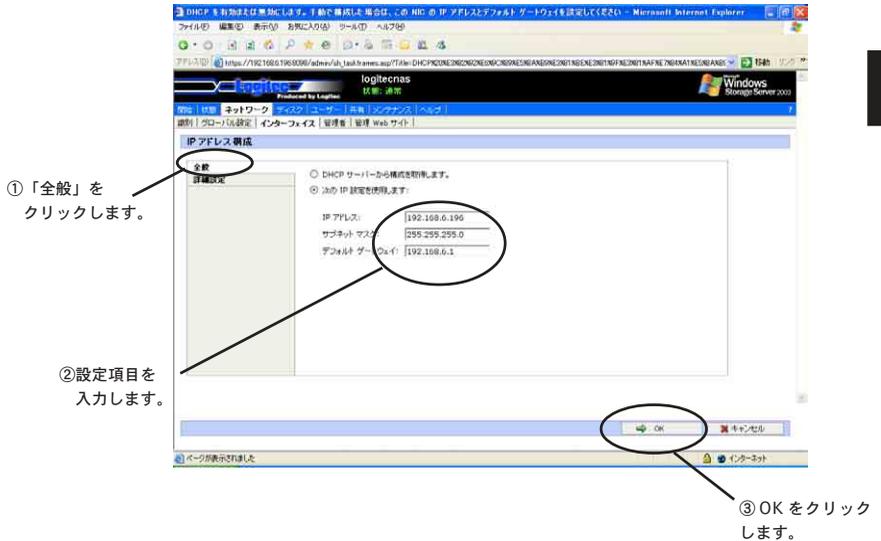
DHCPサーバーが稼働していない環境でご使用になる場合や、DHCPサーバーが稼働していても固定IPアドレスを割り当てる必要がある場合のみ設定してください。



- ① Web UI 管理画面の「ネットワーク」メニューから「インターフェース」を選択します。



- ② 「Local Network Connec...」のラジオボタンがON(●)になっているのを確認して「IP」をクリックします。



- ③「全般」タグの中でTCP/IPの設定をします。
「次のIP設定を使用します」のラジオボタンをON(●)にし、以下の設定を行います。

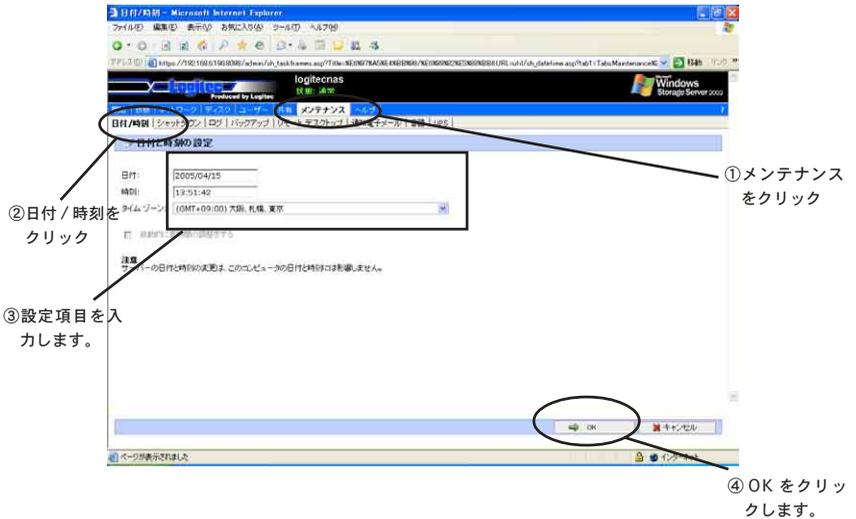
【設定項目】

- ・IPアドレス
- ・サブネットマスク
- ・デフォルトゲートウェイ

登録する値については、ネットワーク構成などにより異なりますので、不明点がありましたらネットワーク管理者にご相談ください。
全ての入力が完了したら「OK」をクリックして設定内容を確定します。

■ 日付と時刻の設定について

Web UI管理画面の「メンテナンス」メニューから「日付/時刻」を選択します。



下記項目について値を設定します。

- ・ 日付：「年(西暦)/月/日」の要領で設定してください。
- ・ 時刻：「時(24時間制):分:秒」の要領で設定してください。
- ・ タイムゾーン：特に問題がなければ「(GMT+9:00)大阪、札幌、東京」を選択してください。

全ての入力完了したら「OK」をクリックして設定内容を確認します。

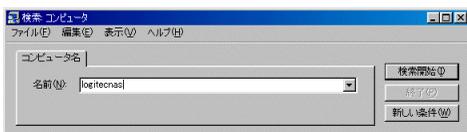
第2章

クライアントPCからのアクセス

本製品は出荷時状態で「Public」という共有フォルダが作成されており、各クライアントPCからのアクセスが可能になっています。このフォルダにはユーザー制限などは行っておりませんので、ネットワーク上のクライアントPCから簡単にアクセスができます。また、Windows、Macintosh、LinuxなどのOSからもアクセス可能になっています。(但しデフォルト設定ではHTTP共有、FTP共有は設定されておりません。)

■ Windows 98、NT 4.0 からのアクセス(CIFS 共有)

- ・ 「スタート」 ボタンをクリックし、「検索(C)」を選択、「ほかのコンピュータ」をクリックし、ウィンドウを開きます。



- ・ 「コンピュータ名(M)」の欄に本製品のIPアドレスかサーバー名を入力します。「検索開始(S)」をクリックします。見つかったコンピュータのアイコンをダブルクリックします。すると共有フォルダ(Public)が現れます。

■ Windows Me、2000 からのアクセス(CIFS 共有)

- ・ 「マイネットワーク」をダブルクリックし、ウィンドウを開きます。
- ・ ツールバーの「検索」をクリックし、検索ウィンドウを開きます。



- ・ 「コンピュータ名(M)」の欄に本製品のIPアドレスかサーバー名を入力し、「検索開始(S)」をクリックします。
- ・ 見つかったコンピュータのアイコンをダブルクリックします。すると共有フォルダ(Public)が現れます。

■ Windows XP からのアクセス(CIFS 共有)

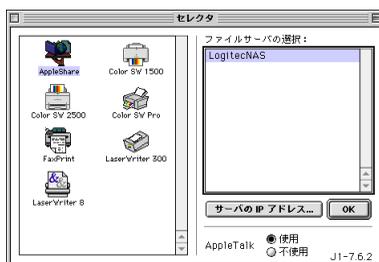
- ・ 「スタート」ボタンをクリックし、「マイコンピュータ」を選択、「マイネットワーク」をクリックし、ウィンドウを開きます。



- ・ ツールバーの「検索」をクリックし、検索コンパニオンの「コンピュータ名」の欄に本製品のIPアドレスかサーバー名を入力します。「検索(R)」をクリックし、見つかったコンピュータのアイコンをダブルクリックします。すると共有フォルダ(Public)が現れます。

■ MacOS(MacOS9.0.4～)からのアクセス(AppleTalk共有)

- ・ Appleメニューより「セレクト」を選択します。



- ・ 「ファイルサーバの選択」からサーバーホスト名を選択します。サーバーホスト名が現れなければ「サーバのIPアドレス」をクリックして、IPアドレスを入力し、「接続」をクリックします。
- ・ ユーザ名とパスワードを求めてきますので、特に本製品にユーザ登録していなければ guest を選択します。
- ・ 共有ボリューム選択画面が現れますので、利用したいボリュームを選択します。

■ MacOS X からのアクセス(AppleTalk 共有)

- ・ 「移動」から「サーバへ接続」を選択し、ウィンドウを開きます。
- ・ 画面左側より「AppleTalk」を選択します。画面右側にサーバの一覧が表示されるので、本製品のサーバ名を選択して「接続」をクリックします。



- ・ ユーザ名とパスワードを求めてきますので、特に本製品にユーザ登録していなければ guest を選択します。
- ・ 共有ボリューム選択画面が現れますので、利用したいボリュームを選択します。



ご注意

- ・ 本製品をMacintoshクライアントから使用する場合、2GBを越える容量のデータを取り扱うことはできませんので、ご注意ください。

■ Linux からのアクセス(NFS 共有)

- ・ Linuxへのディスク共有は、NFS形式で提供していますので、Linuxのシェルコマンドラインよりmountコマンドで本製品の共有フォルダをマウントさせます。記述方式はバージョンなどにより異なりますのでOSのマニュアルなどをご確認ください。

例)RedHat6.2 での場合

```
mount -t nfs logitecnas:/public/mnt
```

本製品のサーバ名 : logitecnas
 本製品の NFS 共有ボリューム:public
 マウント先:/mnt
 での場合。

■ インターネットブラウザからのアクセス(HTTP 共有)

インターネットブラウザを起動し、URL を以下のように入力します。

http:// 本製品の IP アドレスまたはサーバー名 / 共有名

- ・ユーザー名とパスワードを求めるダイアログが現れますので、対応する共有ボリュームにアクセス可能なユーザー名とパスワードを入力して「OK」をクリックします。
- ・ブラウザにファイルリストが現れます。ファイル名をクリックすればファイルがダウンロードされます。

※インターネットブラウザからの操作での共有では、基本的に本製品へのデータのアップロードはできません。ダウンロードのみになります。
※本製品の出荷時状態では Public フォルダに HTTP 共有は設定されておりません。HTTP 共有を行うには管理画面からの設定が必要です。

■ FTP クライアントからのアクセス(FTP 共有)

- ・FTP クライアントソフトを起動し、共有ボリュームにアクセス可能なユーザー名とパスワードでログインしてください。
- ・ログイン直後のフォルダでは共有フォルダは見えませんが共有フォルダ名を直接入力して共有フォルダに移動してください。

アクセスの例(Windows2000 DOS プロンプトの FTP コマンド)

```
C:¥>ftp
ftp> open logitecnas
Connected to logitecnas.
220 LogitecNAS Microsoft FTP Service (Version 5.0).
User (logitecnas:(none)): guest
331 Password required for guest.
Password:
230 User guest logged in.
ftp> cd /public
250 CWD command successful.
```

※本製品の出荷時状態では Public フォルダに FTP 共有は設定されておりません。FTP 共有を行うには管理画面からの設定が必要です。

第3章 Web UI 管理機能

本製品はWeb UIにてインターネットブラウザから主な機能の管理を行います。本章では管理機能について説明します。

3. 1 画面の説明



○ステータス領域

Web UI管理画面の上部に本製品の状態情報が表示されています。ここに表示される情報は以下の通りです。

- ・通常(緑色) 状態メニューの警告エリアにはメッセージはありません。
- ・情報あり(灰色) 状態メニューの警告エリアにインフォメーションが存在しています。
- ・警告(オレンジ色) 状態メニューの警告エリアにエラーメッセージなどが存在しています。
- ・重大(赤色) 状態メニューの警告エリアにシステムエラーメッセージなどが存在しています。

このステータス領域の「状態」をクリックすると情報の詳細ページに移動します。

○ナビゲーションバー

状態表示の下にナビゲーションバーが表示されています。ナビゲーションバーは2段で表示されており、上段がプライマリナビゲーションバー(青色)で、下段がプライマリナビゲーションバーの選択に伴うセカンダリナビゲーションバー(灰色)が表示されます。

○コンテンツ領域

このエリアにナビゲーションバーの上段と下段で選択された情報や、選択項目が表示されます。

3. 2 開始メニュー

このメニューは本製品の初期設定や本製品の使用方法を簡単に知るためのツアーが用意されています。

ツアーを体験



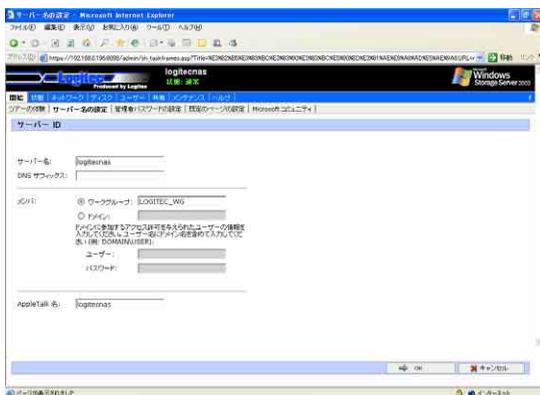
3. 2. 1 ツアーを体験

○ツアーを体験

Microsoft Windows Storage Server 2003 での管理方法や機能を知るための情報がトピックスごとに解りやすく説明しています。初めての方は最初にご一読ください。

3. 2. 2 サーバー名の設定

ここでは本製品のサーバー名を設定します。デフォルトでは「LogitecNAS」と設定されていますが、このサーバー名はネットワーク上で一意の名称でなくてはなりません。従って、本製品を複数台接続される場合は別のサーバー名に変更する必要があります。



また、本製品をネットワーク上のワークグループに参加するか、Windows ドメインに参加するかが設定できます。

ワークグループに参加する場合は「ワークグループ：」ラジオボタンをON(●)にし、ワークグループ名をテキストボックスに入力します。現在ネットワーク上にないワークグループ名を入力すると新しいワークグループとして作成されます。

Windows ドメインに参加する場合は「ドメイン：」ラジオボタンをON(●)にし、テキストボックスにWindows ドメイン名を入力します。また、参加するWindows ドメインにアクセス許可のあるユーザー情報を「ユーザー：」テキストボックスに下記の要領で入力します。

ドメイン：「Windows ドメイン名」

ユーザー：「Windows ドメイン名」\「Windows ドメインの管理者名」

パスワード：「Windows ドメインの管理者パスワード」

(画面上で「\」は「¥」キーで入力します。)

全ての設定が正しくできたら「OK」をクリックして設定を確定します。

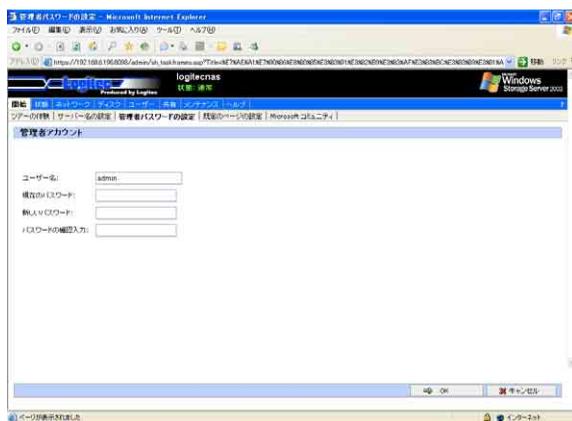


ご注意

Windows ドメインに参加する設定を行った場合、NASを再起動する必要があります。

3. 2. 3 管理者パスワードの設定

ここでは管理者のユーザー名、パスワードを設定します。本製品はデフォルトの管理者ユーザー名を「admin」とし、パスワードは「admin」で登録されています。セキュリティのためにパスワードは必ず変更してください。また、登録したパスワードは忘れないようにしてください。忘れた場合、管理画面へのアクセスができなくなりますのでご注意ください。



- ・ユーザー名
現在登録されているユーザー名（管理者名）が表記されています。
- ・現在のパスワード
- ・新しいパスワード
- ・パスワードの確認入力

全ての入力が完了したら「OK」をクリックして設定内容を確認します。

管理者のパスワードだけを変更することはできますが、管理者名を変更した場合は同時にパスワードの変更も行ってください。

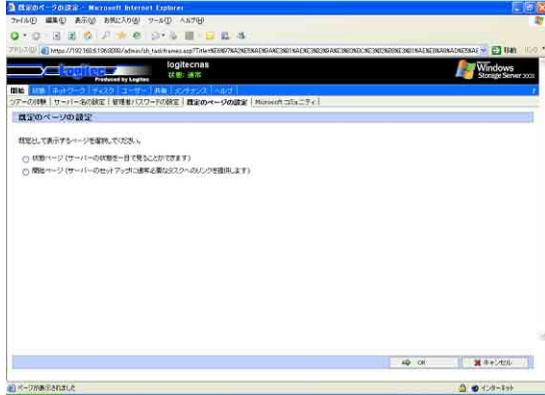


重要なご注意

パスワードは半角文字を入力してください。全角文字を入力された場合、管理画面にアクセスできなくなります。

3. 2. 4 規定ページの設定

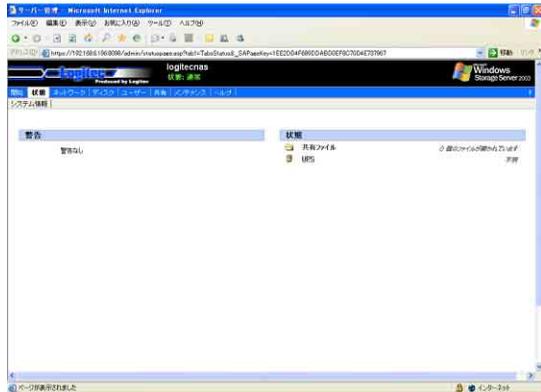
ここではこの管理Web UIにアクセスしたときに最初に表示されるページを設定します。状態ページと開始ページのどちらかが指定できます。



ラジオボタンでどちらかの項目を選択し、「OK」をクリックして設定を確定します。

3. 3 状態メニュー

このメニューは本製品が現在の様な状態が表示します。



警告： システム運用に影響を及ぼす可能性のあるイベントが発生した場合に情報を表示します。

状態： 本製品の稼働状況を表示しています。

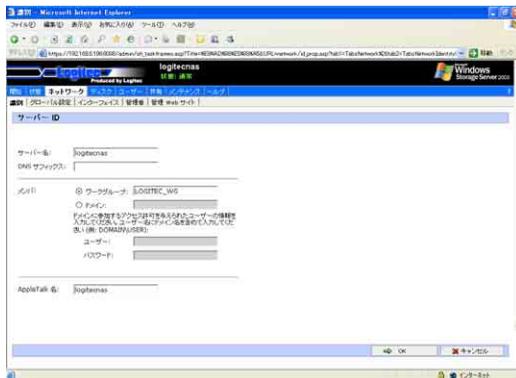
3. 4 ネットワークメニュー

このメニューは本製品のネットワーク関係の設定を行います。



3. 4. 1 識別

ここでは本製品のサーバー名等を変更できます。



・サーバー名

サーバー名を登録できます。サーバー名はネットワーク上でコンピュータ名やホスト名と同義になります。

・DNS サフィックス

ここにDNSサフィックスを登録することにより、完全修飾されたサーバー名を構成できます。

・メンバ

本製品をワークグループやドメイン(Windowsドメイン)に参加させることができます。ワークグループに登録する場合は、ワークグループのラジオボタンをON(●)にし、ワークグループ名を入力します。

Windowsドメインに参加させる場合には、ドメインのラジオボタンをON(●)にし、ドメイン名を入力します。さらにそのドメインに追加する権限を持つユーザーのユーザー名とパスワードを入力します。

ユーザー:ドメイン名\ユーザー名
(「\」は「¥」キーで入力します。)
パスワード:ユーザーのパスワード

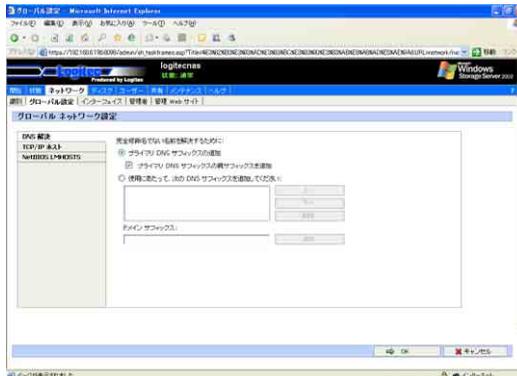
・AppleTalk 名

Macintoshシリーズで共有する際のホスト名を登録します。デフォルトでは、サーバー名と同じですが、変更したい場合はこちらで修正してください。

設定が終わったら「OK」をクリックして設定を確定します。

3. 4. 2 グローバル設定

ここでは本製品のネットワークの参照に関する設定を行います。

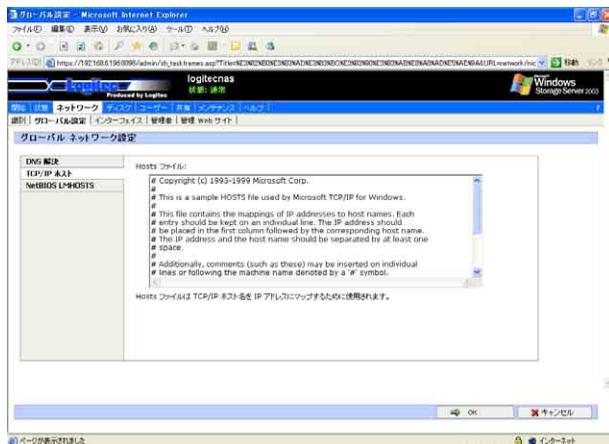


○ DNS 解決

完全修飾名でない名前を解決するためにDNSサフィックスを追加できます。

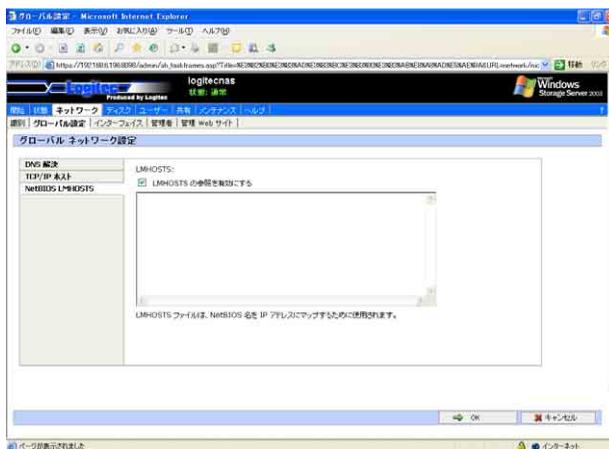
○ TCP/IP ホスト

IPアドレスとホスト名を関連づけるためのホストファイルを編集することができます。テキストボックス内にIPアドレスとホスト名を登録します。



○ NetBIOS LMHOSTS

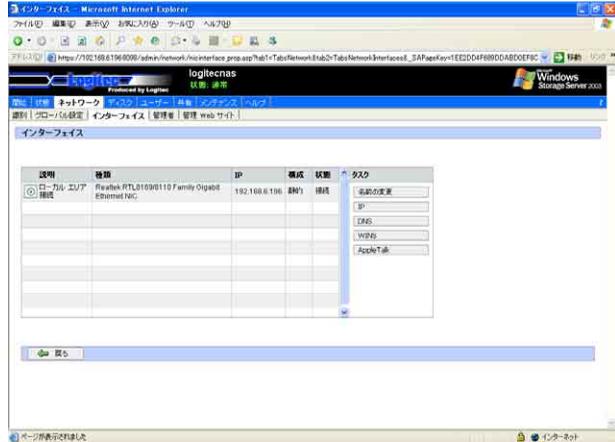
IPアドレスとNetBIOS名を関連づけるためのLMHOSTSファイルを編集することができます。テキストボックス内にIPアドレスとNetBIOS名を登録します。



正しく設定が終わったら「OK」をクリックします。

3. 4. 3 インターフェイス

ここではネットワークインターフェイスに関する設定を行います。

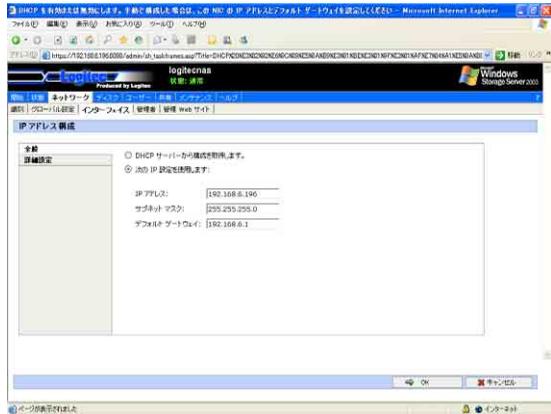


- ・ **説明** : ネットワークインターフェイスの名称が表示されています。
- ・ **種類** : ネットワークインターフェイスの種類が表示されています。
- ・ **IP** : 現在登録されているIPアドレスが表示しています。
- ・ **構成** : 固定IPアドレス(静的)かDHCPによる割り振り(動的)かが表示されています。
- ・ **状態** : ネットワークが稼働状態にあるか表示されています。

■実行可能なタスク :

ネットワークインターフェイスに対する設定の変更を行えます。

- 名前の変更 本製品では未対応です。
- IP IPアドレスに関する設定を行います。



- ・ **全般** ネットワークインターフェイスの IP アドレスを設定します。

DHCP より取得する場合

「DHCP サーバーから構成を取得します」のラジオボタンを ON(●)にします。

固定 IP アドレスを登録する場合

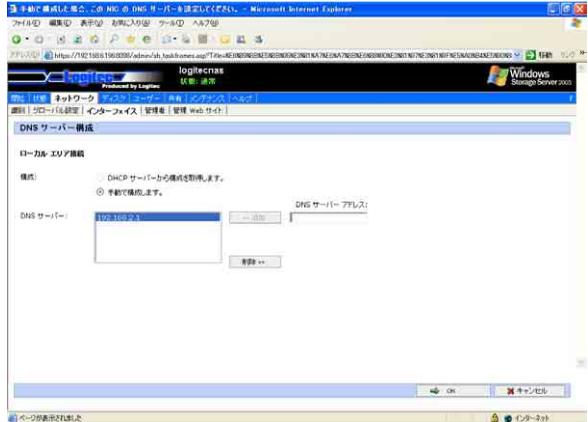
「次の IP 設定を使用します」のラジオボタンをチェックし、IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイを設定します。登録する値はネットワークにより異なりますので、不明な場合はネットワーク管理者にお問い合わせください。

・ **詳細**

ネットワークインターフェイスに登録する IP アドレスの設定がより詳しくできます。必要に応じて IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイアドレス、メトリック、IP 接続メトリックを登録してください。設定が終わったら「OK」をクリックします。

○DNS

名前解決のために参照するDNSサーバーを指定します。



・DHCPサーバーから参照する場合

「構成:」の「DHCPサーバーから構成を取得します。」のラジオボタンをON(●)にします。

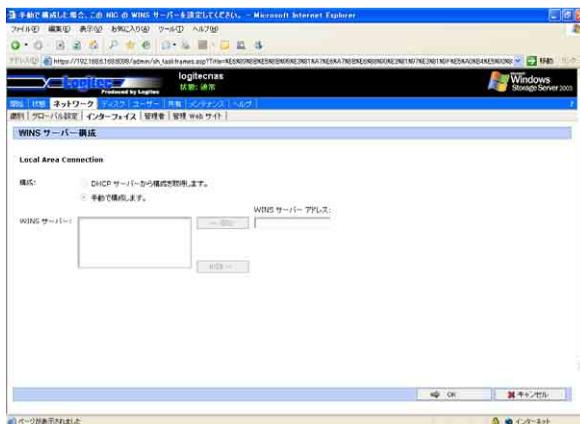
・手動で設定する場合

「構成:」の「手動で構成します。」のラジオボタンをON(●)にし、「DNSサーバー:」の「DNSサーバーアドレス:」にDNSサーバーのIPアドレスを入力し「<<追加」をクリックします。また、登録したDNSサーバーの設定を解除する場合は「DNSサーバー:」テキストボックス内のサーバーのアドレスを選択し「削除>>」をクリックしてください。

設定が終わったら「OK」をクリックします。

○ WINS

Windows の名前解決のために参照する WINS サーバーを指定します。



・ DHCP サーバーから参照する場合

「構成:」の「DHCP サーバーから構成を取得します。」のラジオボタンを ON(●)にします。

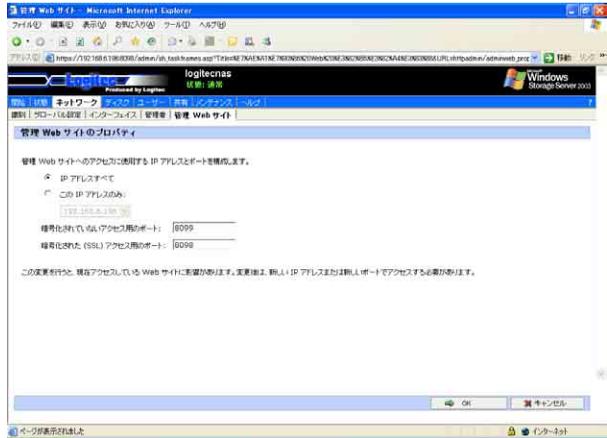
・ 手動で設定する場合

「構成:」の「手動で構成します。」のラジオボタンを ON(●)にし、「WINS サーバー:」の「WINS サーバアドレス:」に WINS サーバーの IP アドレスを入力し「<< 追加 >>」をクリックします。また、登録した WINS サーバーの設定を解除する場合は「WINS サーバー:」テキストボックス内のサーバのアドレスを選択し「削除 >>」をクリックしてください。

設定が終わったら「OK」をクリックします。

3. 4. 5 管理 Web サイト

ここでは管理画面 Web UI へのアクセス方法の変更ができます。



※ IPアドレスの設定ラジオボタンは本製品では無効です。設定の必要はありません。

○ポートの設定

管理画面Web UIへアクセスする際のポート番号を設定できます。

・暗号化されていないアクセス用のポート：

80を除く1～65535までの数値を登録できます。
(デフォルト値は8099)

・暗号化された(SSL)アクセス用のポート：

80を除く1～65535までの数値を登録できます。
(デフォルト値は8098)

※上記2項目は同じ値を登録する事ができません

設定が終わったら「OK」をクリックします。

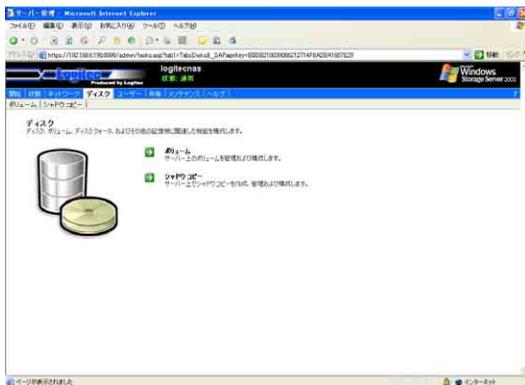


ご注意

- ・管理Webサイトのポートは8000～8999までの間で設定することをおすすめします。

3. 5 ディスクメニュー

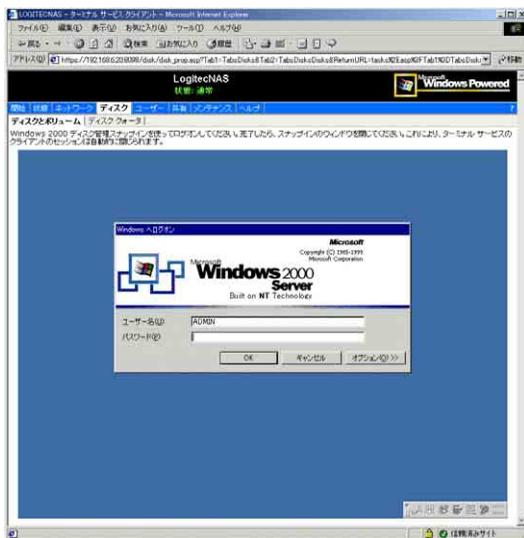
このメニューは本製品のハードディスクに関する設定/管理を行うことができます。



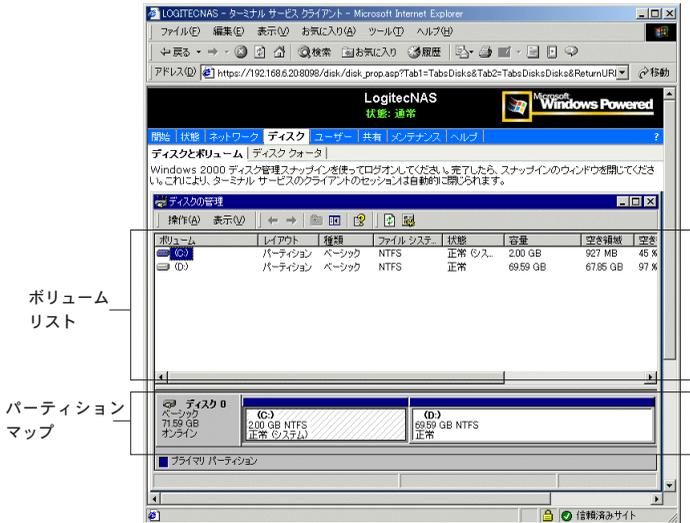
3. 5. 1 ディスクとボリューム

ここでは本製品に内蔵されたハードディスクのフォーマットやパーティションの設定などを行います。この項目はWeb UI上からターミナルクライアントサービスを利用して本製品にアクセスしています。

3



選択後ユーザー名とパスワードの入力を要求されますので、管理者のユーザー名とパスワードを入力して「OK」をクリックしてください。



ボリューム
リスト

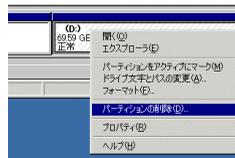
パーティション
マップ

本製品はデフォルトでC:ドライブとD:ドライブが登録されています。画面上部ボリュームリストには現在マウント済みのハードディスクとその情報が記載されています。

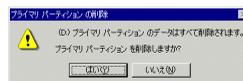
画面下部パーティションマップには現在接続されているハードディスクとそのパーティション情報が記載されています。

○パーティションの解除

パーティションを解除したいハードディスクをパーティションマップから選択し、右クリックで「パーティションの解除」を選択します。



確認のダイアログが現れます。「はい(Y)」をクリックすればパーティションは解除されます。



※パーティションの解除を行うと、その領域の中のデータは失われます。



参考

- ・ LSS-MRW シリーズ、LAS-MRW シリーズのハードディスクは RAID 構成になっているため単一の物理ドライブとして認識されます。
C: ドライブと D: ドライブはそこに作成されたパーティションです。



ご注意

- ・ 現在既に共有されているハードディスクの変更をする際は、最初に共有設定を解除してから操作してください。

○パーティションの作成

パーティションが未割り当てのハードディスクをパーティションマップから選択し、右クリックで「パーティションの作成(P)」を選択します。パーティションウィザードが起動しますので、メッセージに沿って操作を進めます。パーティションの種類、パーティションのサイズ、ドライブ番号の割り当てを設定します。そのままフォーマットすることもできます。フォーマットが必要な場合には実行してください。



○フォーマット

フォーマットを行いたいパーティションをパーティションマップから選択し、右クリックでフォーマットを選択します。尚、ファイルシステムを必ずNTFSにしてフォーマットしてください。NTFS以外のファイルシステムは未サポートです。



ご注意

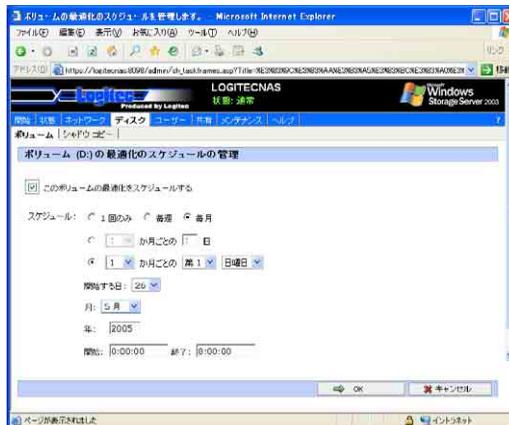
- ・ 共有ボリュームとして使用する場合は、必ずファイルシステムをNTFSにしてフォーマットしてください。

容量	空き領域	空き率
2.00 GB	932 MB	45 %
39.59 GB	67.85 GB	97 %

設定が終了したら「ディスクの管理」ウィンドウの×をクリックし、終了します。

○ボリュームの最適化

ボリュームを分析し断片化されたファイルやフォルダを統合します。(デフラグをスケジュール化し、定期的に行うことができます。)



3. 5. 2 ディスククォータ

ここではハードディスク毎にクォータ(使用可能容量の設定)をおこないます。設定するボリュームをラジオボタンで選択し、「規定のクォータの設定」で設定します。

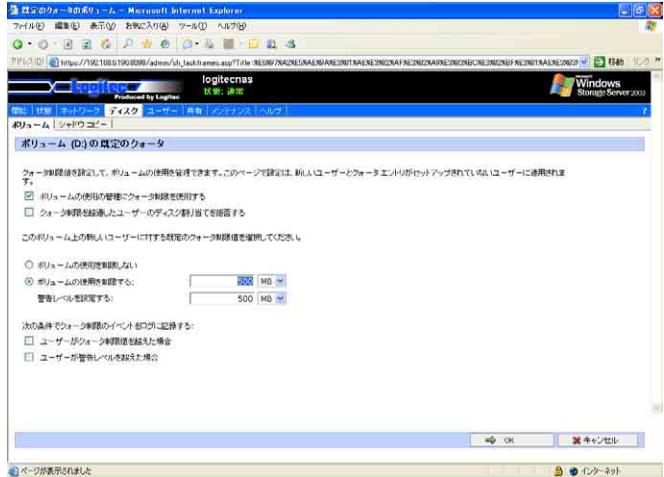


ボリュームを選択すると先ずハードディスクの選択画面が表示されます。ここでは現在のハードディスク情報が表記されています。

- ・ ボリューム名 : 搭載されているディスクのボリューム名(ハードディスク名)が表示されています。
- ・ サイズ : ボリュームの全体容量が表示されます。
- ・ 空き容量 : ボリュームの空き容量が表示されます。

○クォータ

設定したいハードディスクのラジオボタンをON(●)にし、タスクの項目の「クォータ」をクリックすると既定クォータの設定画面になります。ここではハードディスク毎の既定クォータを設定します。

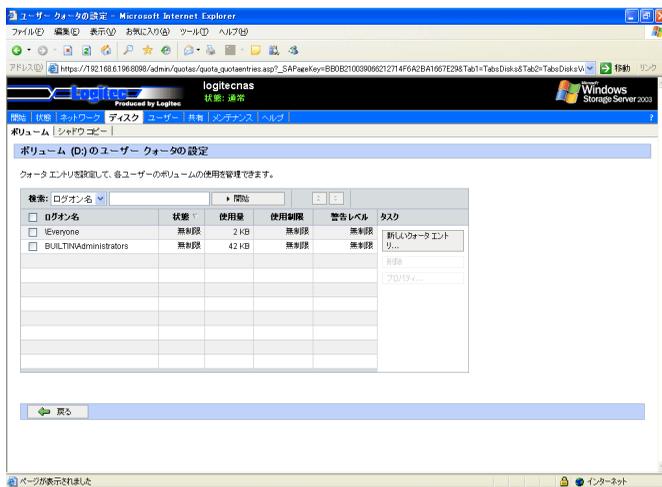


- ・ **ボリュームの使用の管理にクォータ制限を使用する:**
クォータ設定を有効にする場合はここをチェックします。ここがチェックされていないと、このページの他の項目を設定することはできません。
- ・ **クォータ制限を超過したユーザーのディスク割り当てを拒否する:**
この設定をチェックすると、クォータ制限を越えたユーザーのディスク割り当てができなくなります。
- ・ **ボリュームの使用容量を制限する:**
ディスク領域を制限する場合、「ディスク領域を制限する」のラジオボタンをON(●)にし、1ユーザーが使用できる容量を設定します。
- ・ **警告レベルを設定する:**
警告を発する容量を設定します。
- ・ **イベントログへの記録:**
クォータに関するイベントログの記録タイミングについて設定します。タイミングは次の二つから選択できます。
 - ・ ユーザーがクォータ制限値を越えた場合
 - ・ ユーザーが警告レベルを超えた場合

全ての設定が正しくできたら「OK」をクリックして設定を確定します。

○クォータのエントリの設定

設定したいハードディスクのラジオボタンをON(●)にし、タスクの項目の「クォータのエントリの設定」をクリックすると登録されたエントリの情報表示と内容変更、削除、新規追加ができます。

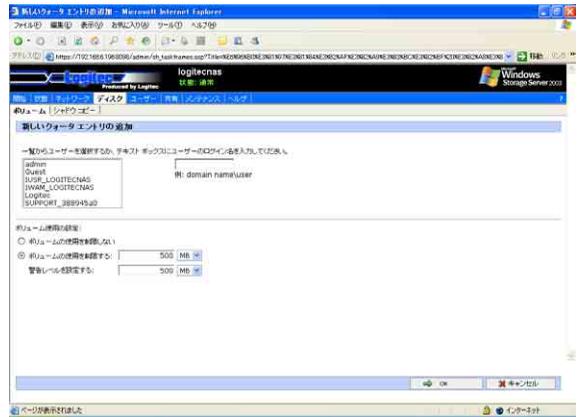


- ・ ログオン名 : 登録されたクォータエントリのログオン名が表示されます。
- ・ 状態 : 割り当てられたクォータ制限に超過していないかが表示されます。管理されていない場合は「無制限」と表示されます。
- ・ 使用量 : 現在使用されているディスク容量が表示されています。
- ・ 仕様制限 : ボリューム上で使用できるディスク容量が表示されています。
- ・ 警告レベル : 設定された警告レベルが表示されています。ここに登録された容量以上を使用すると警告メッセージが發せられます。

■実行可能なタスク

・新規

タスクの「新しいクォータエントリ」をクリックすると「新しいクォータの追加」画面となり、クォータの設定をするユーザーを登録できます。ローカルで登録されているユーザーかWindowsドメインに参加していれば、ドメインユーザーもエントリ登録できます。



ローカルで登録されているユーザーは、一覧の中からユーザー名を選択し、Windowsドメインのユーザーであればテキストボックスに

Windowsドメイン名\ユーザー名の形式で入力してください。(画面上で「\」は「¥」キーで入力します。)

更にディスク容量を制限するかしないかをラジオボタンで選択します。

制限する場合はその容量と警告レベルを設定します。

正しく設定ができれば「OK」をクリックして設定を確定します。

・削除

削除したいクォータエントリのラジオボタンをON(●)にし、「削除」をクリックするとクォータ登録されたユーザーを削除できます。

・プロパティ

登録内容を変更したいクォータエントリのラジオボタンをON(●)にし、タスクの「プロパティ」をクリックするとクォータ登録された内容を変更できます。

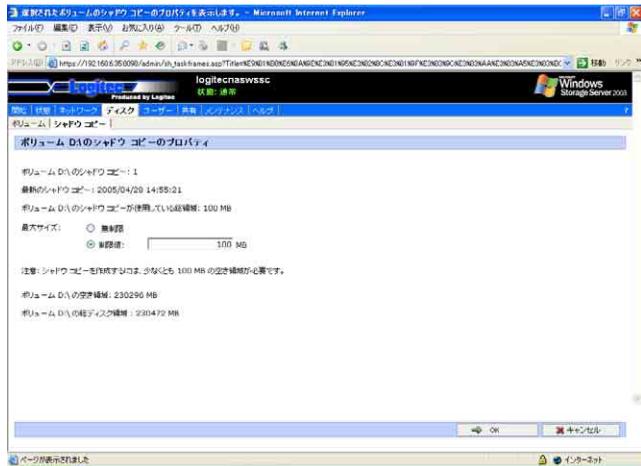
3. 5. 3 シャドウコピー



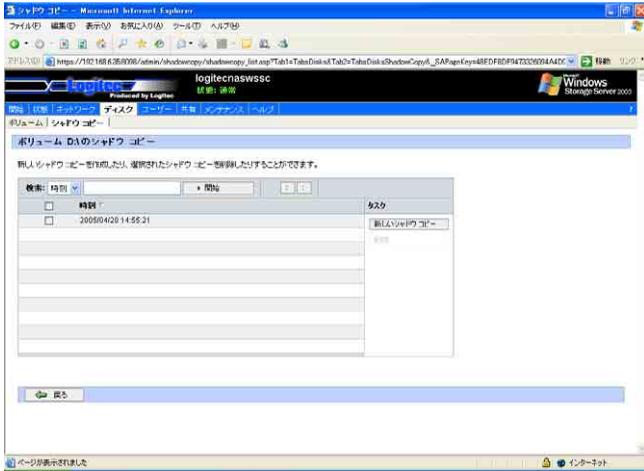
- ・ ボリューム : シャドウコピーサービスを使用できるサーバー上のボリュームが表示されます。
- ・ コピー : シャドウコピーを行った回数が表示されます。
- ・ 使用量 : 各ボリュームのシャドウコピー用の領域に対しての使用量が表示されます。
- ・ 共有 : 各ボリューム上に存在する共有フォルダの数が表示されます。
- ・ 次回の実行時刻 : シャドウコピーサービスを有効にしている場合、次回シャドウコピーを実施する日時が表示されず、シャドウコピーサービスを設定していない場合は無効と表示されます。

■実行可能なタスク

- ・有効： シャドウコピーの作成を有効にします。
- ・無効： シャドウコピーの作成を無効にします。
- ・新しいシャドウコピー：
 - 新しいシャドウコピーを作成します。
 - このボタンを押した際にシャドウコピーを作成します。
- ・シャドウコピーの表示：
 - 選択したボリュームのシャドウコピーの一覧を表示します。
- ・スケジュールの設定：
 - 選択したボリュームのシャドウコピーを作成するスケジュールを設定します。
- ・プロパティ：
 - 選択したボリュームのシャドウコピーのプロパティを表示します。
 - シャドウコピーを行った際の保管エリアの容量を設定します。
 - デフォルトは無制限です。

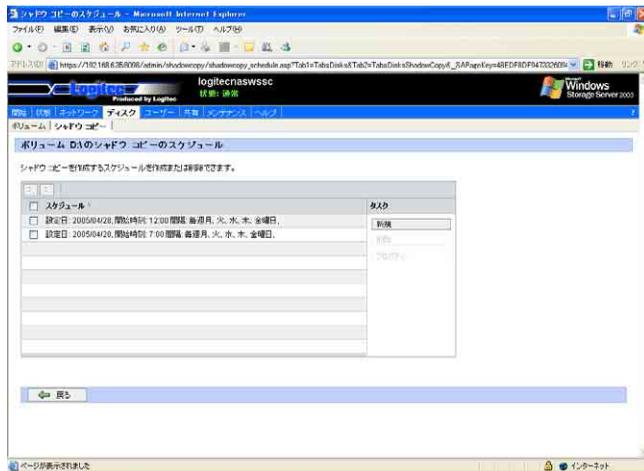


・シャドウコピーの表示：



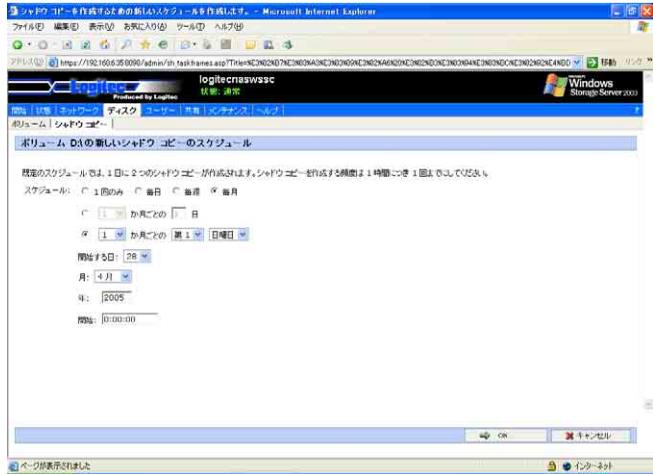
・時刻： シャドウコピーを行った時刻が表示されます。

・スケジュールの設定：



3

一覧の中からシャドウコピーを行う時間を選択できます。
また、「新規」ボタンを押すことにより細かなスケジュールを設定することが可能です。



- ・ 1回のみ : 開始する日時を指定します。
- ・ 毎日 : 開始する日時と何日ごとに行うかの周期指定します。
- ・ 毎週 : 開始する日時と何週間ごとに行うかの周期および曜日を指定します。
- ・ 毎月 : 開始する日時と何ヶ月ごとの何日または曜日の指定をします。

すべての入力が完了したら「OK」をクリックして内容を確定します。

○シャドウコピーからの復元

これらのシャドウ コピーを実行するコンピュータで表示するには、シャドウ コピー クライアントをインストールする必要があります。

シャドウ コピー クライアントはマイクロソフト社のホームページ(下記 URL 参照) からダウンロードし、ウィザードにしたがってインストールを行なってください。

シャドウコピー ダウンロードサイト

<http://www.microsoft.com/japan/windowsserver2003/downloads/shadowcopyclient.mspx>

シャドウコピークライアント対応クライアント

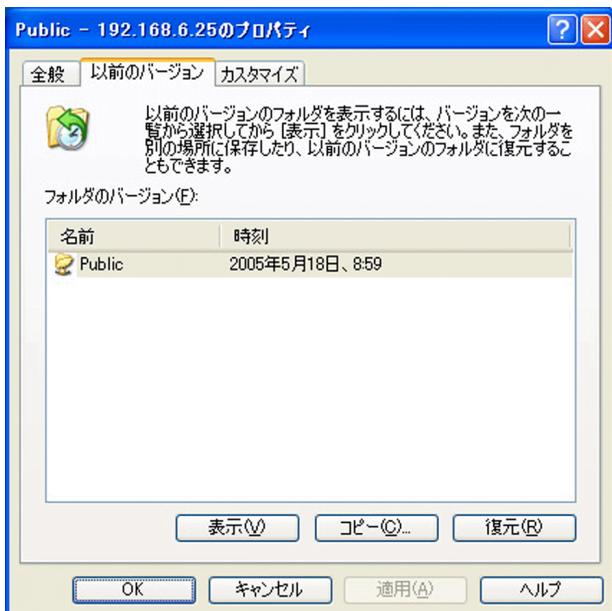
以下のOS以外はシャドウコピークライアントをインストールすることはできません。

Windows XP Professional

Windows 2000 SP3 以降

・フォルダ単位で復元する方法

- ① シャドウコピークライアントソフトウェアから NAS 内の共有フォルダにアクセスします。
- ② 共有フォルダ内にてマウスの右クリックを押し「プロパティ」を選択し、「以前のバージョン」タグを選択します。



- ③ 復元したいバージョンを選択し「復元」ボタンを押すことにより共有フォルダ内のデータを復元することができます。

・ファイル単位で復元する方法

- ① シャドウコピークライアントソフトウェアからNAS内の共有フォルダにアクセスします。
- ② 共有フォルダ内にてマウスの右クリックを押し「プロパティ」を選択し、「以前のバージョン」タグを選択します。

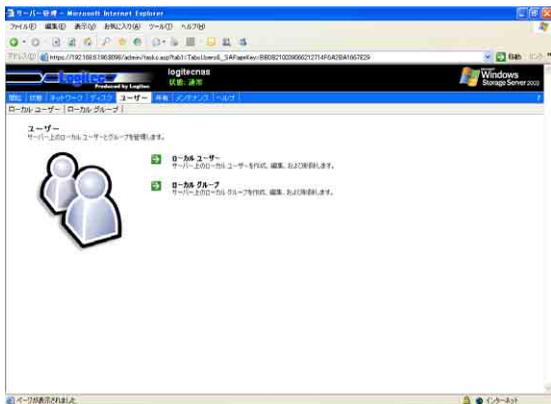


- ③ 復元したいバージョンを選択し「表示」ボタンを押すと選択したバージョンのバックアップの内容が別ウィンドウで表示されます。復元したいファイルをローカルのパソコンなどにコピーすることができます。

※シャドウコピーファイルは読取専用のためファイルを開くことはできませんが保存することはできません。

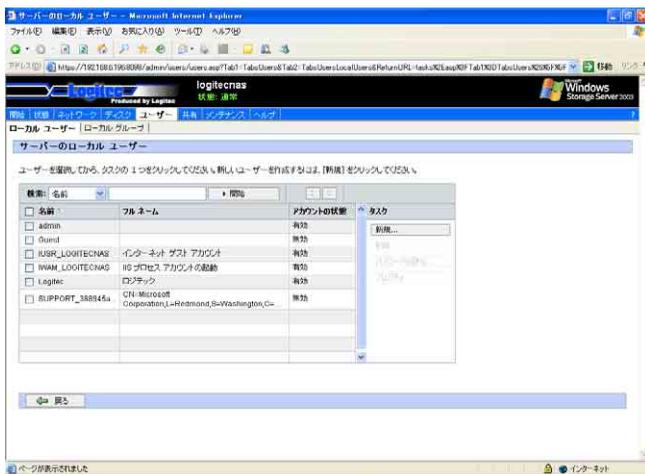
3. 6 ユーザーメニュー

このメニューでは本製品にアクセスするユーザー / グループの管理が行えます。



3. 6. 1 ローカルユーザー

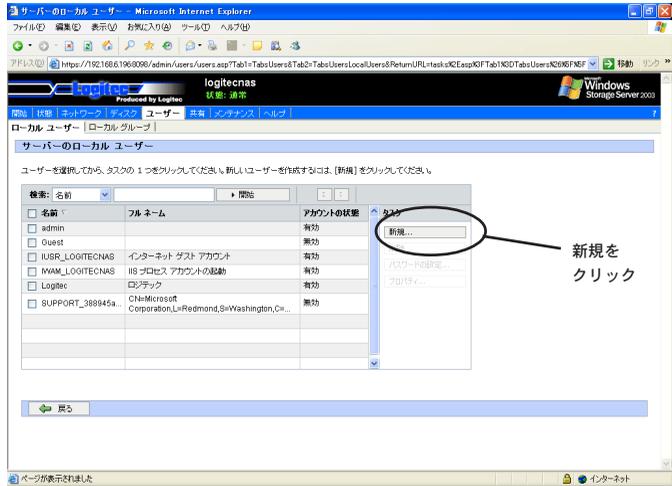
ここでは本製品にアクセスするユーザーの新規追加、削除、変更を行います。



- ・名前: 登録されているユーザー名が表記されています。
- ・フルネーム: ユーザー名に登録されている氏名が表記されています。
- ・アカウントの状態: 「有効」になっていればこのユーザー名のアカウントは有効です。「無効」になっていればこのユーザー名のアカウントは現在無効になっています。

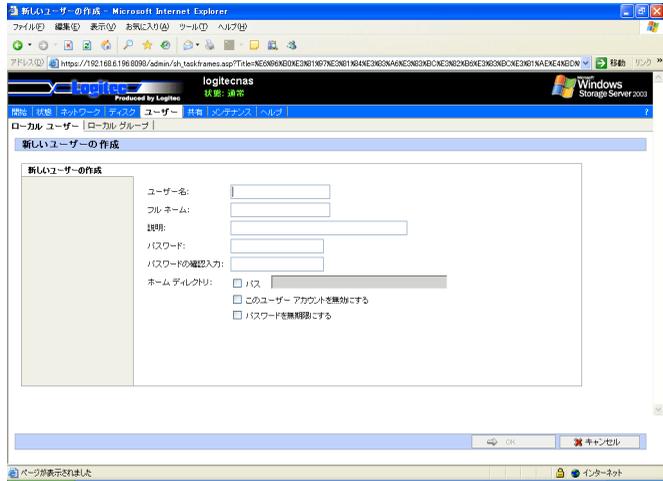
○新規ユーザーの作成

サーバーのローカルユーザーのメニューでタスクの「新規」をクリックします。



3

新しいユーザーの作成メニューが現れますので、必要事項を入力します。



・ ユーザー名 :

ユーザー名を入力します。このユーザー名でログインします。
ユーザー名には半角英数字を使用してください。

・ フルネーム :

ユーザーのフルネームを入力します。管理用に解りやすく入力してください。

・ 説明 :

ユーザーの説明を入力します。

・ パスワード :

ユーザーのパスワードを設定してください。パスワードには半角英数字を使用してください。

・ パスワードの確認入力 :

パスワードの欄で入力したパスワードを確認のためもう一度入力してください。

・ ホームディレクトリ :

このユーザーに対してホームディレクトリ(このユーザー専用のディレクトリ)を作成する場合には「パス」のチェックボックスをチェックし、パスを必要に応じて入力してください。デフォルトのパスは

C:\Users\[ユーザー名]

となります。デフォルトでCドライブとなっていますが、Dドライブを使用する事をおすすめします。

※工場出荷時にはUsersフォルダは作成されません。最初にユーザーフォルダを作成した時に自動的に作成されます。また、Usersフォルダは共有設定になっていませんので「3.7 共有フォルダ」を参照のうえ共有設定を行ってください。

・ このユーザーアカウントを無効にする :

登録するユーザーを有効にする場合はこの項目はチェックしないでください。何かしらの理由でこのユーザーを一時無効にしたい場合は、このチェックボックスをチェックしてください。

正しく設定できたら「OK」をクリックしてください。

・パスワードを無期限にする：

パスワードの期限を無期限にする場合は、このチェックボックスをチェックしてください。無期限にしない場合、42日でパスワードは無効になります。

○ユーザーの削除

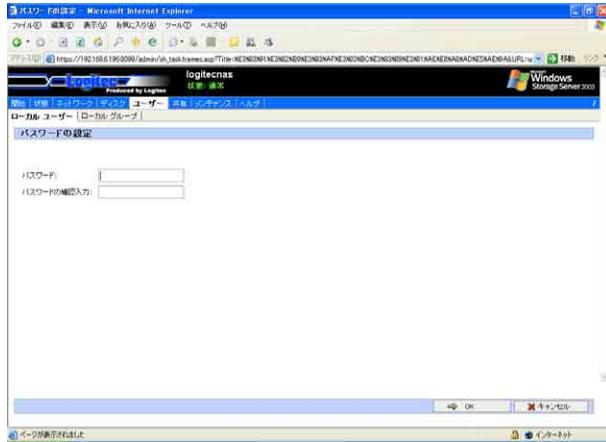
[サーバー] - [ローカルユーザー] - [メニュー] で削除するユーザーの名前の項目のチェックボックスをチェックして「削除」をクリックしてください。



確認画面が現れますので、「OK」をクリックすれば指定したユーザーが削除されます。複数のユーザーをチェックすれば、一度に複数のユーザーを削除できます。

○パスワードの設定

[サーバー] - [ローカルユーザー] - [メニュー] で、パスワードを変更するユーザーの名前の項目のチェックボックスをチェックして「パスワードの設定」をクリックしてください。パスワードの設定画面が表示されます。



ここでパスワードを設定してください。パスワードには半角英数字を使用してください。

正しく設定できたら「OK」をクリックして設定を確定してください。

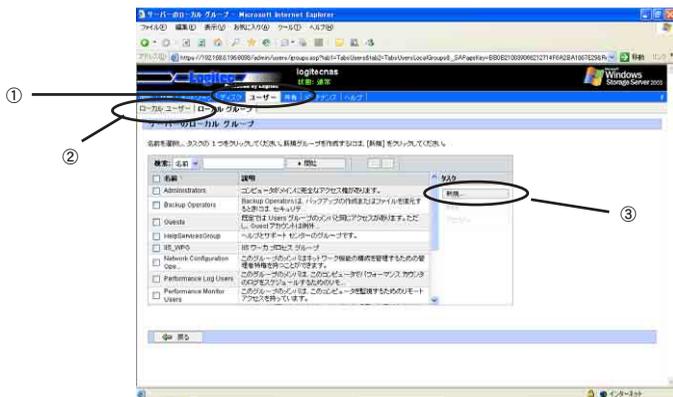


参考

- ・ユーザーがパスワードを忘れてしまった場合には、管理者がここで登録し直してください。
- ・複数のユーザーのパスワードを一度に変更することはできません。

3. 6. 2 ローカルグループ

ここではユーザーグループの管理を行います。

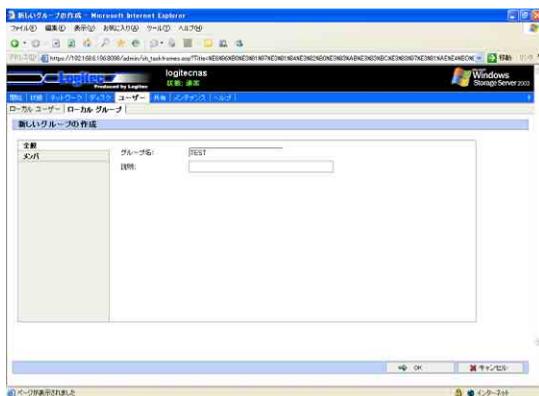


- ・名前: 登録されているグループ名が表記されています。
- ・説明: 各グループの説明が表記されています。

○新規グループの作成

ユーザーグループメニューで「新規」をクリックします。新しいグループの作成メニューが現れますので、必要事項を入力します。「全般」タグと「メンバ」タグの内容を全て設定します。

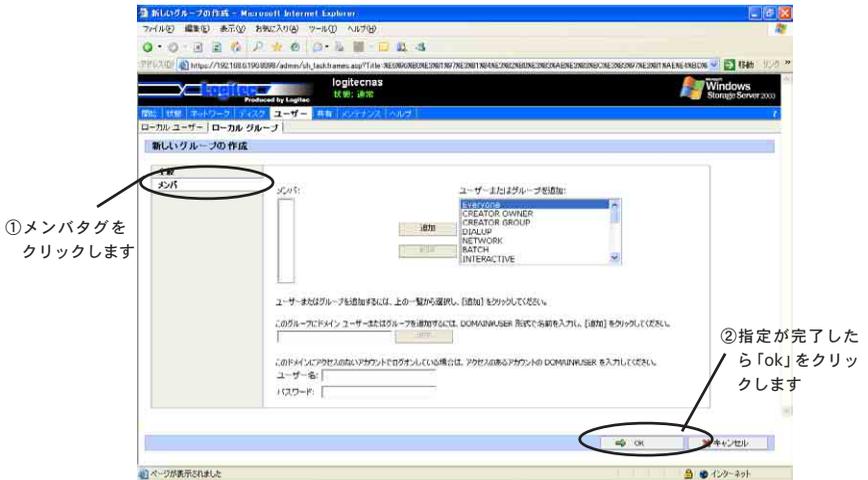
・全般の設定



- グループ名: グループ名を入力します。
- 説明: グループの説明を入力します。

・メンバーの設定

「メンバ」タグをクリックします。メンバはローカルユーザー／グループか、Windowsドメインユーザー／グループを登録できます。



・ローカルユーザー／グループを登録する:

「ユーザーまたはグループを追加」ボックス内からローカルユーザー／グループを選択します。[Ctrl]キーを押しながらクリックすれば、複数ユーザー／グループが一度に選択できます。選択したら「追加」をクリックします。すると、「メンバ:」ボックス内に追加したユーザーが表示されます。

・Windowsドメインのユーザー／グループを登録する:

ドメインユーザー追加テキストボックスにユーザー名を入力します。

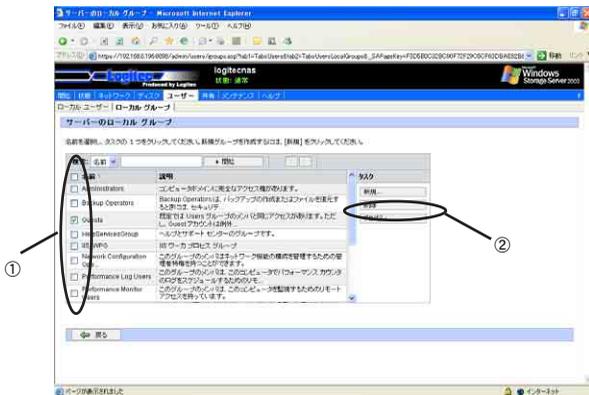
ドメイン名\ユーザー名(グループ名)

の形式で入力してください。また、本製品が該当するWindowsドメインに参加していない場合は、「ユーザー名」、「パスワード」の欄に、そのドメインに対してユーザーを追加できるユーザーのユーザー名とパスワードを入力してください。正しく入力できたら「追加」をクリックしてください。「メンバ:」ボックス内に追加したユーザーが表示されます。

全ての設定がすみましたら「OK」をクリックしてください。

○グループの削除

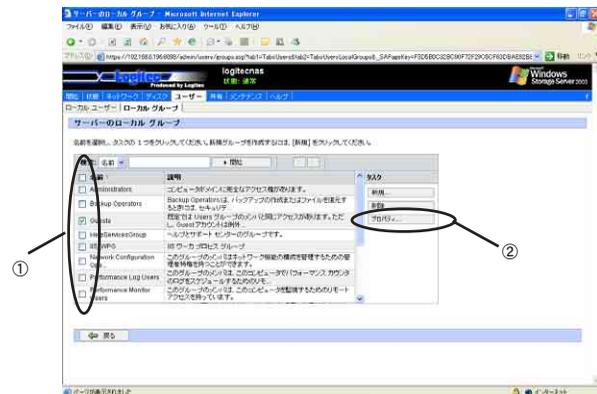
ローカルグループメニューで削除するグループの名前の項目のチェックボックスをチェックして、タスクの「削除」をクリックしてください。確認画面が現れますので、「OK」をクリックすれば指定したグループが削除されます。複数のグループをチェックすれば一度に複数のユーザーを削除できます。



○グループ登録内容の変更

登録内容を変更するグループの名前の項目のチェックボックスをチェックして、タスクの「プロパティ」をクリックしてください。グループを新規登録した際と同様に「全般」タグと「メンバ」タグの内容が変更できます。

設定が正しくできたら「OK」をクリックします。



3. 7 共有フォルダ

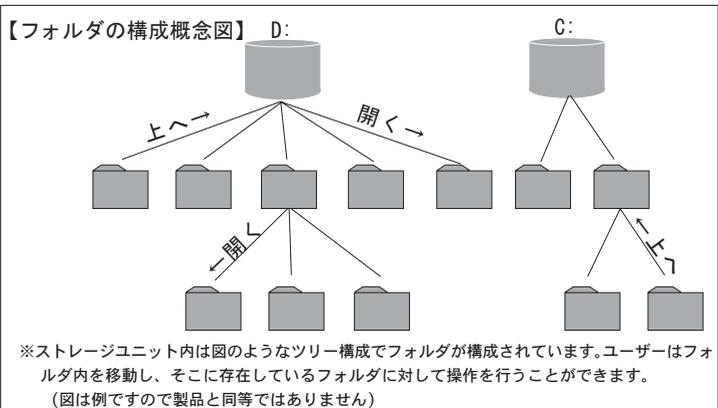
このメニューでは、本製品内のフォルダに対する共有の設定や共有の種類などを設定できます。本製品内のフォルダに対して共有設定することにより、そのフォルダがネットワーク上に公開され、各クライアントPCからアクセスが可能になります。

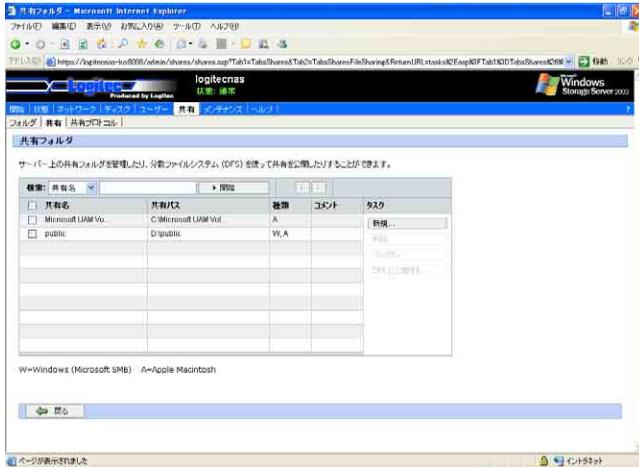


3. 7. 1 フォルダ

ここでは共有フォルダを設定できます。

リストにはフォルダもしくはボリュームのリストが表示されます。また、ツリー構成になっているフォルダを移動することもできます。そして、フォルダの作成/削除、フォルダの共有設定などの操作ができます。





3

・ 共有名

共有フォルダ名を入力します。

・ 共有パス

共有フォルダのパス名を入力します。

例) D:\TEST

フォルダを作成しますにチェックを入れます。

・ 共有へのアクセスを許可するクライアントを選択

アクセスを許可するクライアントの種類を選択する。

・ 種類

フォルダ(ボリューム)がネットワーク上に共有されている場合、共有の種類が表示されています。

W:Windows 共有

U:UNIX(Linux)共有

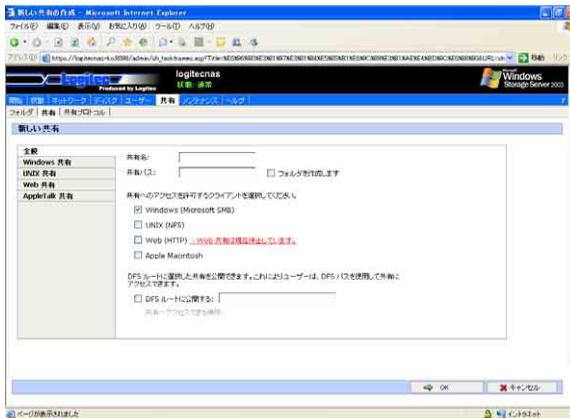
F:FTP 共有

H:HTTP(Web)共有

A:Apple 共有

○フォルダの作成方法

共有フォルダ画面にて、タスクの「新規」をクリックします。「新しい共有」メニューが表示されますので、フォルダ名を入力し属性を決定します。(システム属性はWeb UI上では付加できません)

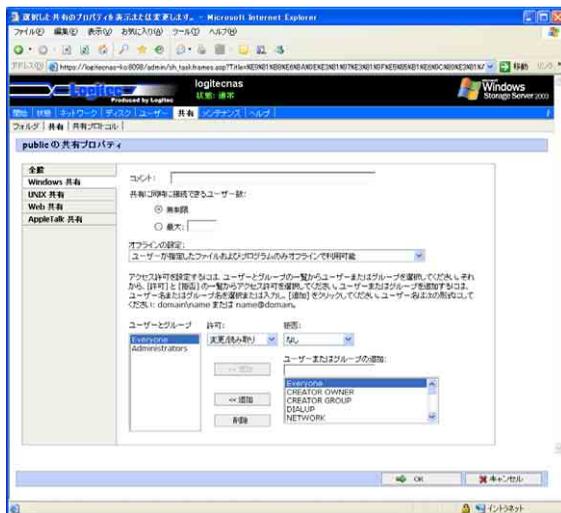


フォルダの圧縮が必要であれば「圧縮」タグにて、「このフォルダの内容を圧縮してディスク領域を節約する」チェックボックスをチェックします。

全ての設定が終わったら「OK」をクリックします。

○フォルダ情報の変更

フォルダ情報を変更したいフォルダ名のチェックボックスをチェックし、タスクの「プロパティ」をクリックします。



フォルダ名、属性、フォルダの圧縮情報の変更ができます。

○フォルダの共有設定

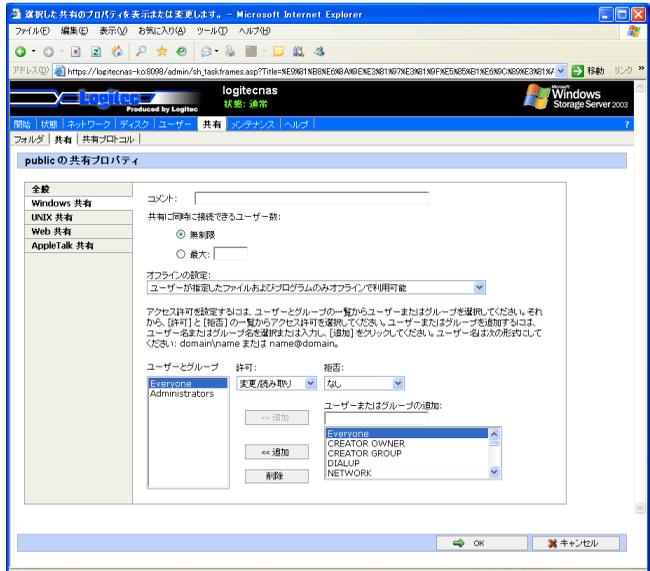
ネットワーク上で共有したいフォルダ名のチェックボックスをチェックし、タスクの「プロパティ」をクリックします。選択した共有のプロパティメニューが表示されます。(次ページ参照) 全てのタグの設定が正しくできたら「OK」をクリックして設定を確定します。

□全般タグ

ここでは共有名や対応ファイルシステムを設定します。

□ Windows 共有タグ

ここではWindows共有(Windowsクライアントに対する共有)に関する設定をします。

・ コメント :

共有に対するコメントを入力します。

・ ユーザー制限 :

この共有に対して同時にアクセスユーザー数を制限する場合は「最大:」のラジオボタンをON(●)にし最大ユーザー数を入力します。ユーザー数を制限しない場合は「無制限」のラジオボタンをON(●)にします。

・ オフラインの設定 :

次の3つから

- ・ユーザーが指定したファイルおよびプログラムのみオフラインで使用可能
- ・ユーザーが指定したファイルおよびプログラムのみオフラインで使用可能
- ・ユーザーが指定したファイルおよびプログラムのみオフラインで使用可能

・ アクセスユーザー制限 :

ユーザー毎のアクセス制限とアクセス制限の種類を設定します。制限をかけるユーザーがローカルユーザーの場合はユーザーボックスの中から選択し、Windowsドメインのユーザーの場合はユーザー名/グループ名をテキストボックスに入力します。入力形式は以下の通りです。

Windows ドメイン名・ユーザー名(もしくはグループ名)

※画面上では「・」が「¥」で表記されている可能性があります。



ご注意

everyoneグループが正常に登録できない場合は、ユーザまたはグループの追加の欄に「本製品のサーバー名\everyone」と入力して「<<追加」ボタンをクリックしてください。

その後、各ユーザー毎に許可設定(フルコントロール/変更/読み取り/変更, 読み取り/なし)と、拒否設定(フルコントロール/変更/読み取り/変更, 読み取り/なし)を設定します。

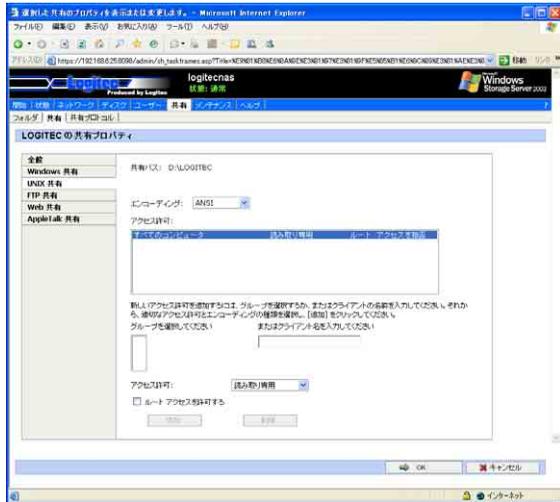


参考

- ・ 例えばguestユーザーにファイルの読み込みはさせたいけどファイルを書き込ませたくない場合は、許可に「読み取り」を設定し、拒否に「変更」を設定します。
-

□ UNIX 共有タグ

ここではUNIX共有(UNIX(Linux)クライアントに対する共有)に関する設定をします。



・ クライアントグループ

リストの中から制限をかけたいクライアントグループを選択し、「追加」をクリックします。共有グループは「共有プロトコル」の「NFS プロトコル」の中で作成できます。

・ エンコーディング

LINUX とデータの受け渡しを行う際の文字コードを指定します。

・ アクセス許可

現在設定されているアクセスリストが表示されます。

・ クライアントの追加

制限をかけたいクライアントのコンピュータ名(ホスト名)をテキストボックスに入力し、「追加」をクリックします。下のボックスに追加されたクライアントに対してアクセス制限をかけることができます。

・ アクセスの種類

登録されているユーザー(グループ)に対してアクセスの種類を設定します。プルダウンメニューの下記3つから選択できます。

読み取り - 書き込み

共有するフォルダ内のデータに対してリード・ライトが可能です。

読み取り専用

共有するフォルダ内のデータに対してリードのみ可能です。

アクセスなし

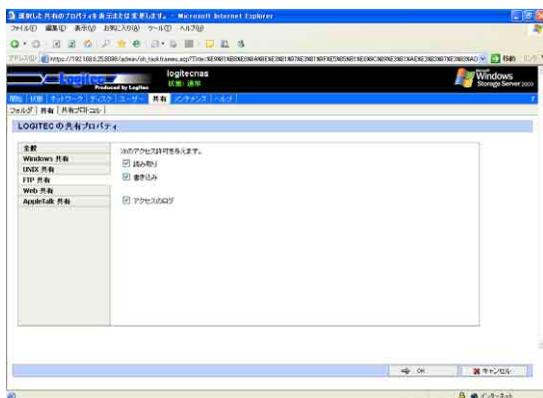
共有するフォルダ内のデータにアクセスできません。

・ルートアクセスを許可する

- ・root ユーザーからのアクセスを許可する際にチェックを入れます。

□ FTP 共有タグ

ここでは FTP 共有に関する設定をします。FTP 共有ではユーザー毎のアクセス制限はできません。



・ 読み取り :

共有するフォルダ内のデータのリードを許可する場合チェックします。

・ 書き込み :

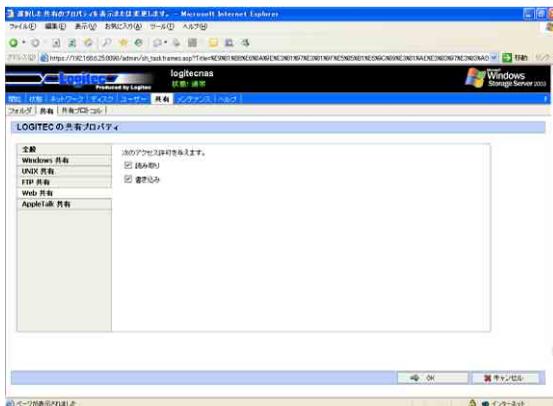
共有するフォルダ内のデータのライトを許可する場合チェックします。

・ アクセスのログ :

アクセスに対するログ(記録ファイル)を保存する場合チェックします。

□ Web 共有タグ

ここでは Web 共有に関する設定をします。Web 共有ではユーザー毎のアクセス制限はできません。



・読み取り：

共有するフォルダ内のデータのリードを許可する場合チェックします。

・書き込み：

共有するフォルダ内のデータのライトを許可する場合チェックします。



○フォルダ管理

ボリューム名からドライブを選択し、タスクの「フォルダの管理」をクリックします。



フォルダ名のチェックボックスをチェックし、タスクの「共有の管理」をクリックすると、チェックしたフォルダ以下で現在共有設定されているフォルダの一覧が表示され、タスクにより共有フォルダの新規作成、削除、設定変更が行えます。



3

・ フォルダ :

共有名が表示されています。

・ 更新日時 :

ファイルの作成などフォルダへの更新があった日時が表示されます。

・ 共有の種類 :

フォルダ(ボリューム)がネットワーク上に共有されている場合、共有の種類が表示されています。

W:Windows 共有 U:UNIX(Linux)共有
F:FTP 共有 H:HTTP(Web)共有 A:Apple 共有

・ 属性 :

フォルダの属性が表示されます。

A : アーカイブ R : 読み取り専用
C : 圧縮 R : システムフォルダ
H : 隠しファイル

■実行可能なタスク

共有フォルダに対して設定操作を行います。

- ・親フォルダ

ひとつ上のフォルダへ移動します。

- ・新規

新規に共有フォルダを作成します。設定方法については「3. 7 共有フォルダ」を参照してください。

- ・削除

削除したい共有名をチェックし、「削除」をクリックすると共有フォルダが解除されます。この操作では共有が解除されるだけなので、フォルダとフォルダ内のデータはそのまま保存されます。

- ・開く

フォルダを開きます。

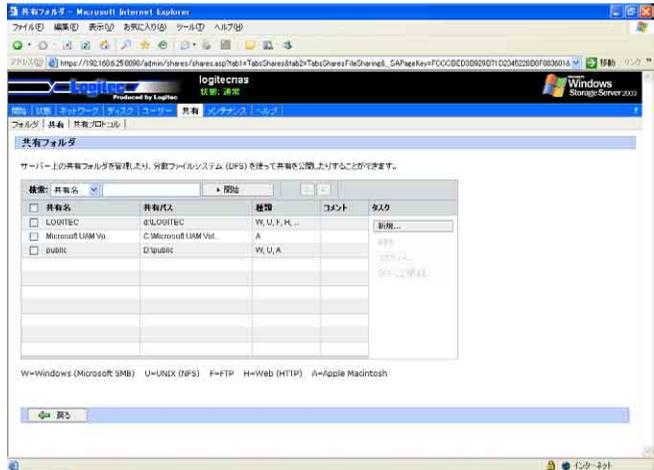
- ・プロパティ

既に作成されている共有フォルダの設定を変更します。設定方法は「3. 7 共有フォルダ」を参照してください。

3. 7. 2 共有

ここでは共有ボリュームを管理できます。「共有」をクリックすると、現在共有設定されているフォルダの一覧が表示され、共有フォルダの新規作成、削除、設定変更が行えます。

3



・共有名：

共有名が表示されています。

・共有パス：

共有フォルダの実フォルダが表示されています。

・種類：

フォルダ(ボリューム)がネットワーク上に共有されている場合、共有の種類が表示されています。

W:Windows 共有

U:UNIX(Linux)共有

F:FTP 共有

H:HTTP(Web)共有

A:Apple 共有

・コメント：

共有フォルダに対してのコメントが表示されています。

■実行可能なタスク

・新規

新規に共有フォルダを作成します。設定内容については「3. 7. 1 フォルダ」を参照してください。

・削除

削除したい共有名をチェックし、「削除」をクリックすると共有フォルダが解除されます。共有が解除されるだけなので、フォルダとフォルダ内のデータはそのまま保存されます。

・プロパティ

既に作成されている共有フォルダの設定を変更します。設定内容は「3. 7. 1 フォルダ」を参照してください。

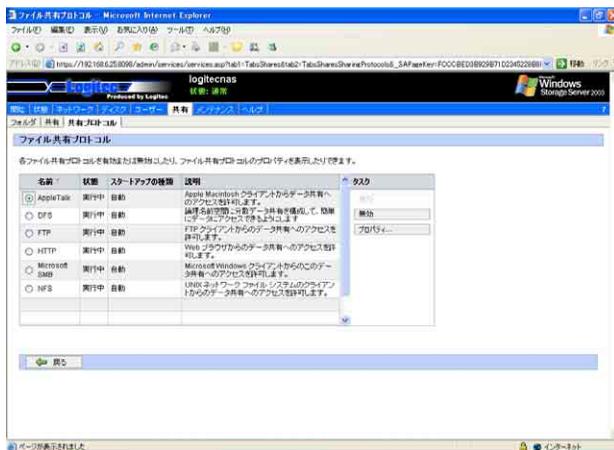
・DFSに公開する

この機能は未サポートです。

この機能はご使用しないでください。

3. 7. 3 共有プロトコル

ここでは各共有プロトコルの設定と、プロトコルの実行/停止が設定できます。「共有プロトコル」をクリックするとプロトコルの一覧が表示され、プロトコルのパラメータが確認できます。



・名前：

プロトコルの名称が表示されています。本製品に登録されているプロトコルは「Appletalk」、「DFS」、「FTP」、「HTTP」、「Microsoft SMB」、「NFS」の6種類です。

・状態：

プロトコルが使用可能かを表示しています。使用可能なときは「実行中」と表示されます。

・スタートアップの種類：

プロトコルが本製品起動時にどのような状態になっているか表示されます。「自動」と表示されていれば本製品起動と共にプロトコルが使用可能になります。

・説明：

プロトコルに対する説明が表示されています。

■ 実行可能なタスク

・有効 / 無効

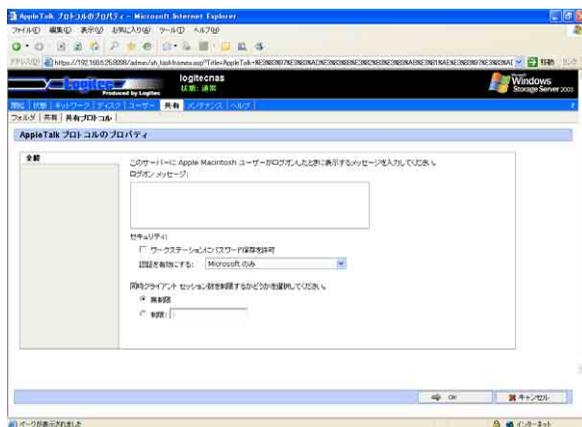
プロトコルの状態を変更します。状態を変更したいプロトコルのプロトコル名のラジオボタンをON(●)にし、「有効」をクリックすれば状態は実行中になり、スタートアップの種類も自動になります。「無効」をクリックすれば状態は停止になり、スタートアップの種類も無効になります。但し、「DFS」、「HTTP」、「Microsoft SMB」は無効にすることはできません。

・プロパティ

各プロトコルの設定を変更します。設定を変更したいプロトコル名の所のラジオボタンをON(●)にし、「プロパティ」をクリックします。

○ AppleTalkのプロパティ

ここではAppleTalkプロトコルの設定ができます。全て正しく設定できたら「OK」をクリックします。



・ログオン メッセージ

Macintosh クライアントが本製品にログオンした時に表示するメッセージを登録できます。

・セキュリティ

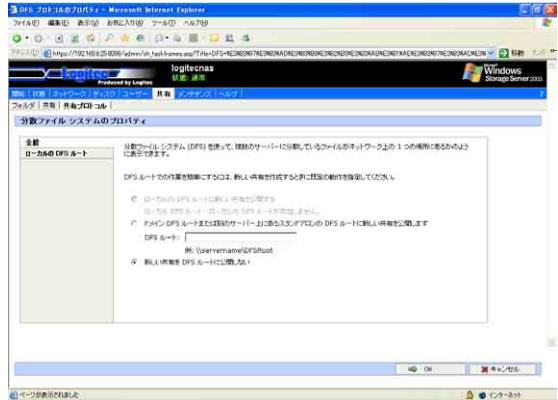
クライアントがパスワードを保存するのを許可する場合はチェックボックスをチェックします。また、認証システムをの種類をプルダウンメニューより選択します。

・セッション

セッションを制限する場合には「制限」のラジオボタンをチェックし、セッション数を入力します。制限を設けない場合は「無制限」のラジオボタンをON(●)にします。

○ DFSのプロパティ

この機能は未サポートです。
この機能はご使用しないでください。



全般

・規定値の動作

新規に共有フォルダを作成した際の規定値を設定できません。

ローカルの DFS ルート

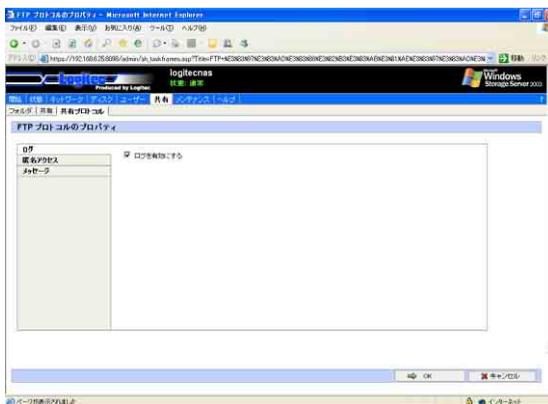
DFS のルート名とフォルダのパスを入力します。

○ CIFS プロトコルのプロパティ

CIFS プロトコルには、とくに設定する項目はありません。
状態やスタートアップの種類が表示されます。

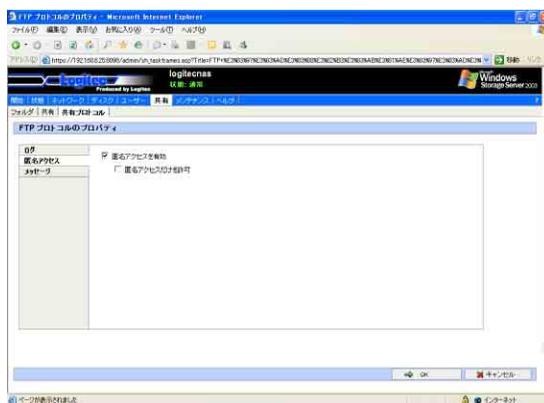
○ FTP プロトコルのプロパティ

ここではFTPプロトコルの設定ができます。各タブの設定が全て正しくできたら「OK」をクリックします。



・ログタブ

ログ(通信記録)を有効にする場合はチェックボックスをチェックします。

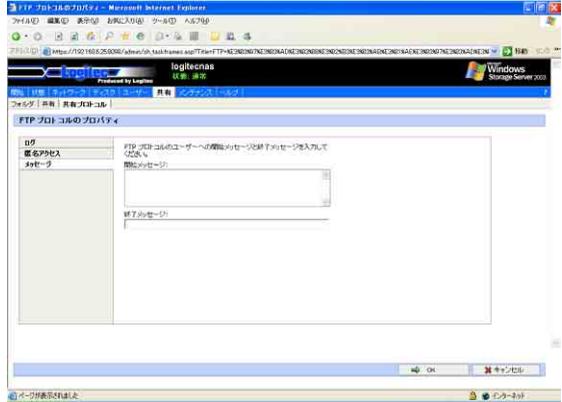


・匿名アクセstab

FTPでのアクセスに際して匿名でのアクセスを許可する場合は、「匿名アクセスを有効」のチェックボックスにチェックします。さらに、匿名でのアクセスのみにする場合は、「匿名アクセスだけを許可」のチェックボックスにチェックします。

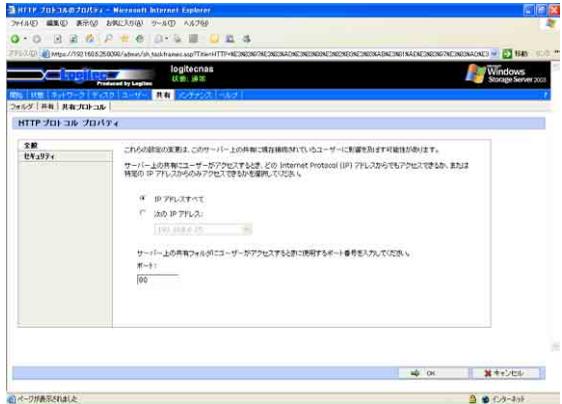
・メッセージタブ

クライアントがFTPで本製品にログオンしたときとログアウトするときに表示するメッセージを登録します。



○HTTP プロトコルのプロパティ

ここではHTTP プロトコルの設定ができます。全て正しく設定できたら「OK」をクリックします。



3

全般

・IP アドレスの設定

本製品ではこの項目の変更は特に動作に反映されません。

・ポートの設定

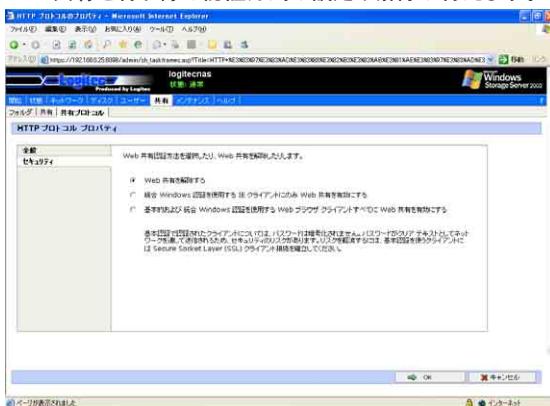
HTTP共有フォルダにアクセスする際のTCP/IPのポート番号を設定します。ここに80以外の数値を設定した場合は、HTTP共有フォルダにアクセスする際に本製品のIPアドレス（もしくはサーバー名）だけでなくポート番号も入力してアクセスしなくてはなりません

例)ポート番号を「8888」に設定した場合のアクセスURL

http://LogitecNAS:8888/

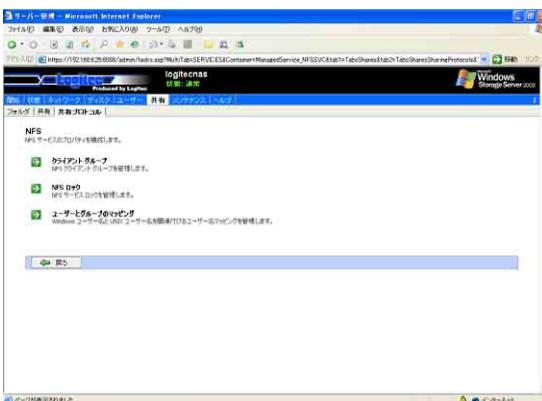
○セキュリティ

web共有を行う際の認証方式の設定や解除が行えます。



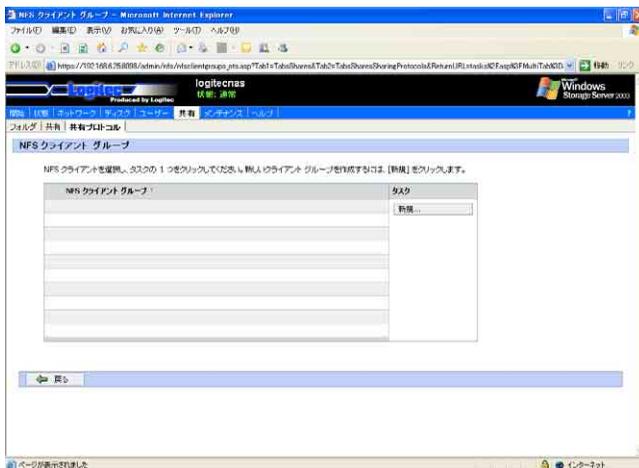
○NFS プロトコルのプロパティ

ここでは NFS プロトコルの設定ができます。このメニューは更に3つの項目に細分されています。



・クライアントグループ

ここでは NFS 共有の際のクライアントのグループを管理できます。

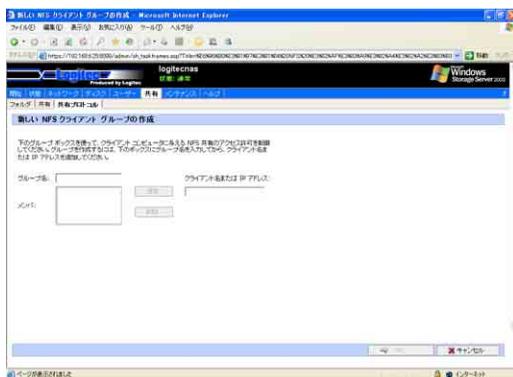


NFSクライアントグループ

現在登録されている NFS クライアントグループ名が表示されています。

3

■実行可能なタスク



・新規

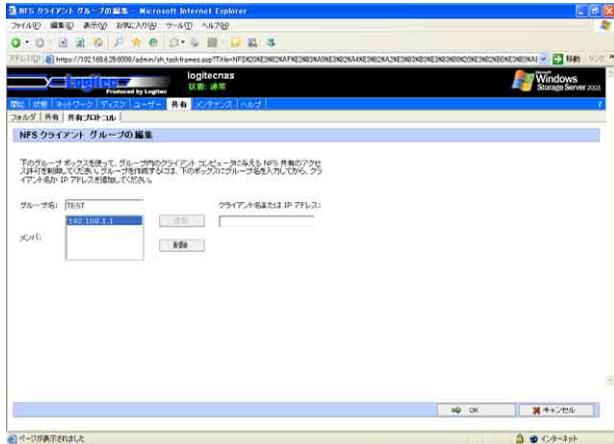
「新規」をクリックすると「新しい NFS クライアントグループ」メニューが現れます。グループ名を入力し、グループのメンバーになるコンピュータ名(ホスト名)か IP アドレスを入力して「追加」をクリックします。全てのメンバーの登録後「OK」をクリックします。

・削除

削除したいNFSクライアントグループのラジオボタンをON(●)にし、「削除」をクリックすると選択したNFSグループが削除できます。

・編集

設定を変更したいNFSクライアントグループのラジオボタンをON(●)にし、「編集」をクリックすると設定の変更が行えます。



グループ名の変更、メンバーの追加、削除が行えます。全ての変更が行えたら「OK」をクリックします。

・NFS ロック

ここではNFS サービスロックを管理できます。NFS プロトコルは、ファイルをロックする機能をサポートしています。ファイルをロックすることで、二人以上のユーザが同じファイル上で同時に作業することを回避することができます。



ロックされたクライアントを手動で解除したい場合は、テキストボックス内に表示されているクライアントを選択します。待ち時間を設定し、全ての項目が正しく設定できたら「OK」をクリックして設定を確定させます。

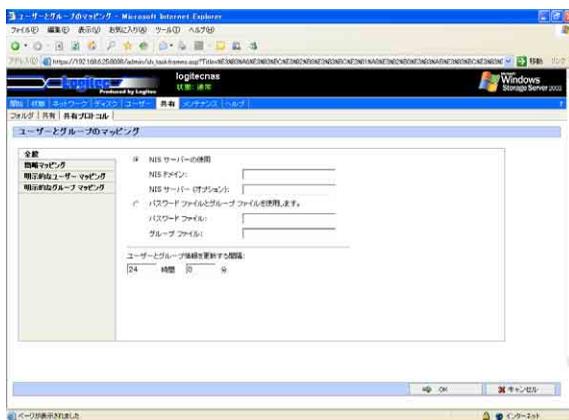
3

・ユーザーとグループのマッピング

本製品は NFS プロトコルでアクセスする Linux クライアントからアクセスされる本製品のファイルのセキュリティのために、Linux (UNIX)ユーザーまたはグループアカウントを、本製品上の対応するアカウントに関連付けができます。また、単にすべての Linux クライアントを匿名ユーザーとして扱うこともできます。全ての設定が正しく行えたら「OK」をクリックします。

・全般タグ

ここではLinuxユーザーの管理方式の選択が行えます。



(NIS サーバーの使用)

NIS サーバーで管理する場合は「NIS サーバーの使用」ラジオボタンを ON(●)にし、NIS ドメイン名を「NIS ドメイン:」テキストボックスに、NIS サーバー名を「NIS サーバー(オプション):」テキストボックスに入力します。NIS ユーザーとグループ情報を更新する間隔をテキストボックスに入力します。

(パスワードファイル/グループファイルの使用)

パスワードファイルとグループファイルで管理する場合は「パスワードファイルとグループファイルを使用します。」ラジオボタンを ON(●)にし、パスワードファイル名を「パスワードファイル:」テキストボックスに、グループファイル名を「グループファイル:」テキストボックスにフルパスで入力します。

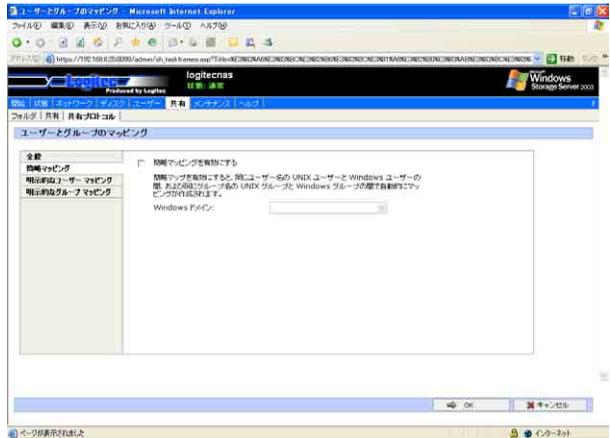


参考

- ・パスワードファイルとグループファイルは一般的には現在使用しているLinuxサーバからコピーしてする必要があります。Linuxでは通常/etcフォルダの下にパスワードファイル(passwd)とグループファイル(group)ファイルが存在しています。そのファイルを一端FTP経由で本製品に取り込み、取り込んだフォルダのフルパスをパスワードファイル/グループファイルの欄に入力します。

・簡略マッピングタグ

ここでは、簡略マッピングの設定が行えます。

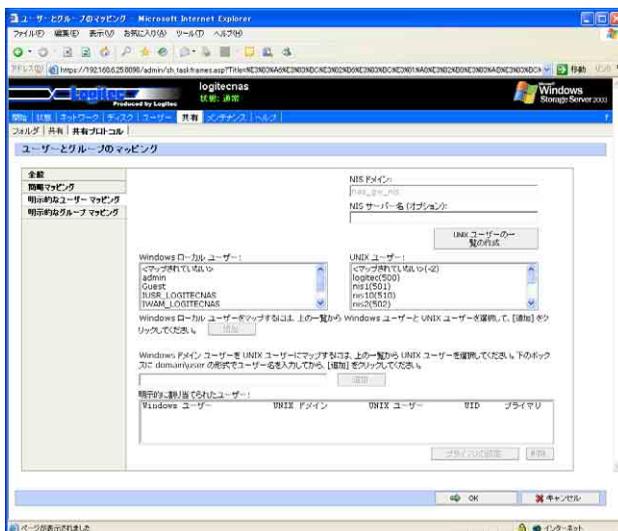


簡略マッピングを有効にするには、「簡略マッピングを有効にする」チェックボックスをチェックします。また、Windows ドメインブルダウメニューからローカルのユーザーグループ「サーバー名」

が参加している Windows ドメインを選択します。Windows ドメインに登録している場合は、ブルダウメニューより Windows ドメインを選択することにより、Windows ドメインユーザーとマッピングを設定することができます。

・明示的なユーザーマッピングタグ

ここでは、Linux(UNIX)ユーザーとWindowsに登録されたユーザーの関連づけが手動で行えます。



3

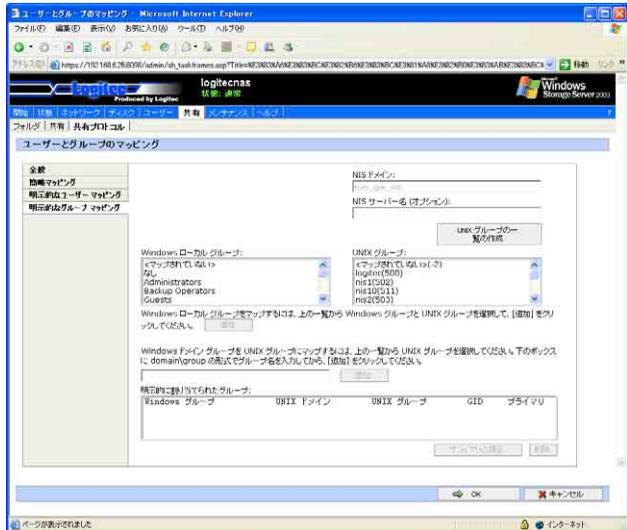
Linux (UNIX) ユーザーを「UNIXユーザー:」テキストボックスより選択します。本製品に登録されたユーザーを関連づける場合は「Windows ローカルユーザー」からユーザーを選択して「追加」をクリックします。Windowsドメインに登録されたユーザーを関連づける場合はテキストボックスに

Windows ドメイン名\ユーザー名

※画面上では「\」が「¥」で表記されている可能性があります。

の形式で入力して「追加」をクリックします。すると「明示的に割り当てられたユーザー」テキストボックスに関連づけされたWindowsユーザーとLinux(UNIX)ユーザーが表示されます。

- ・明示的なグループマッピングタブ
ここでは、Linux(UNIX)グループとWindowsに登録されたグループの関連づけが手動で行えます。



3

Linux (UNIX) グループを「UNIXグループ:」テキストボックスより選択します。本製品に登録されたグループを関連づける場合は「Windowsローカルグループ」からグループを選択して「追加」をクリックします。Windowsドメインに登録されたグループを関連づける場合はテキストボックスに

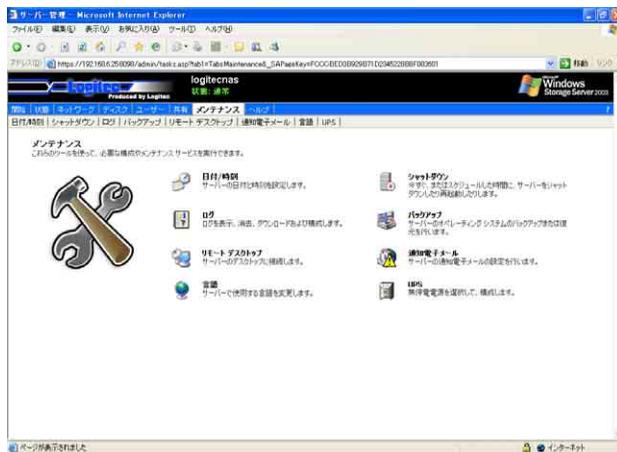
Windowsドメイン名\グループ名

※画面上では「\」が「¥」で表記されている可能性があります。

の形式で入力して「追加」をクリックします。すると「明示的に割り当てられたグループ」テキストボックスに関連づけられたWindowsグループとLinux(UNIX)グループが表示されます。

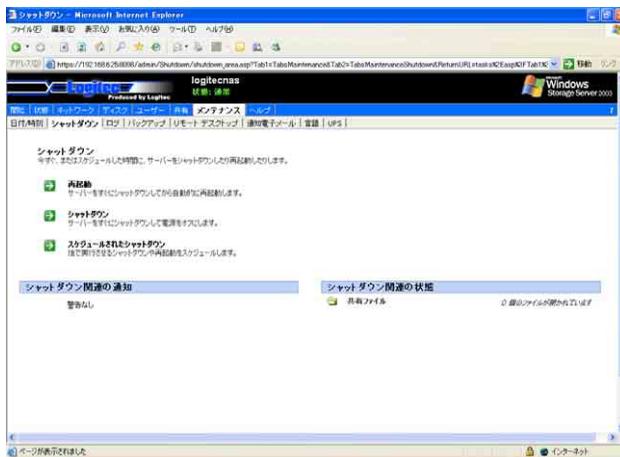
3. 8 メンテナンスメニュー

このメニューでは、本製品の各種の設定とユーティリティがまとめられています。



3. 8. 2 シャットダウン

本製品をシャットダウンさせることができます。シャットダウンの種類により3つの項目があります。



3

・シャットダウン関連の通知：

シャットダウン/再起動のスケジュールがあるときはシャットダウン/再起動のスケジュールが表示されます。

・シャットダウン関連の状態：

シャットダウンのための情報(現在開かれているファイルの数)が表示されています。

・再起動：

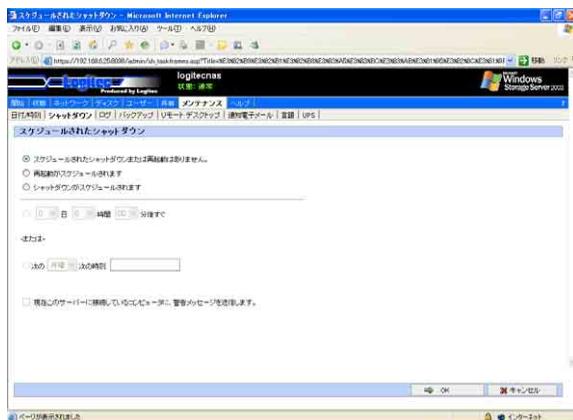
本製品を直ちに再起動させます。

・シャットダウン：

本製品を直ちにシャットダウンし、電源をOFFにします。

・スケジュールされたシャットダウン:

シャットダウン / 再起動を指定時刻に行います。シャットダウンをスケジュールするには「シャットダウンはスケジュールされました」ラジオボタンをON(●)にし、時刻を設定します。



再起動をスケジュールするには「再起動はスケジュールされました」ラジオボタンをON(●)にし、時刻を設定します。

【時刻の設定】

時刻の設定には2通りの方法があります。

- ・ 指定時間経過後に実行
 - ラジオボタンをON(●)にし、日、時間、分をプルダウンメニューで選択します。その後「OK」をクリックしてから指定した時間が経過した時にシャットダウン / 再起動が実行されます。
- ・ 指定時刻になったら実行
 - ラジオボタンをON(●)にし、曜日をプルダウンメニューで選択し、時刻を 時:分:秒 の形式でテキストボックスに入力します。「OK」をクリックすると次の指定した曜日の指定の時刻にシャットダウン / 再起動が実行されます。
- ・ 警告メッセージ
 - クライアントに警告メッセージを送る場合はチェックボックスにチェックします。

3. 8. 3 ログ

ここでは、各種ログの閲覧、管理が行えます。



・アプリケーションログ：

プログラム(アプリケーション)からのイベントで排出されたログを管理しています。

・システムログ：

オペレーティングシステムのシステムコンポーネントからイベントで排出されたログを管理しています。

・セキュリティログ：

システムのセキュリティに関するイベントで排出されたログを管理しています。

・Web 管理ログ：

管理画面Web UI に対してのアクセス関係のログを管理しています。

・NFS ログ：

NFS プロトコル共有に対してのアクセス関係のログを管理しています。

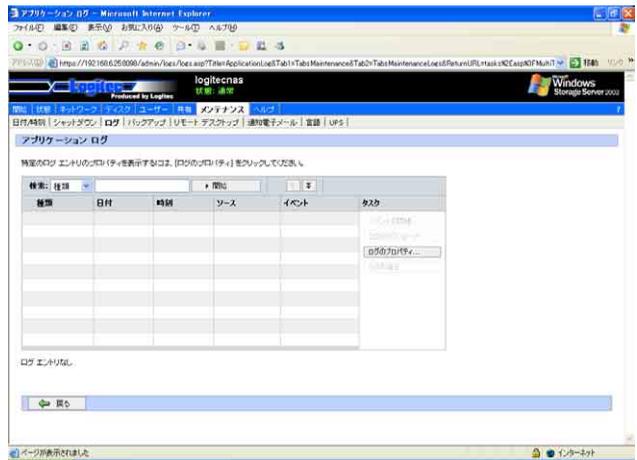
・Web(HTTP)共有ログ：

HTTP プロトコル共有に対してのアクセス関係のログを管理しています。

・FTP ログ：

FTP プロトコル共有に対してのアクセス関係のログを管理しています。

【アプリケーションログ、システムログ、セキュリティログの管理方法】



・種類：

イベントの重要度により「情報」「警告」「エラー」と表示されます。

・日付：

イベントの発生した日付が表示されます。

・時刻：

イベントの発生した時刻が表示されます。

・ソース：

ログを排出したアプリケーション/コンポーネントなどが表示されます。

・イベント：

イベント ID が表示されています。

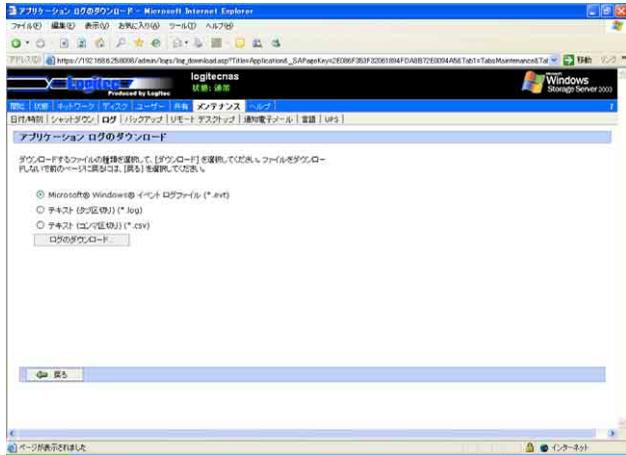
■実行可能なタスク

○イベントの詳細

詳細を表示したいイベントのラジオボタンをチェックし、「イベントの詳細」をクリックします。

○ログのダウンロード

ログをダウンロードする場合、「ログのダウンロード」をクリックします。ダウンロードするファイル形式が選べますので、ラジオボタンで希望のファイル形式をチェックし、「ログのダウンロード」をクリックします。



<ダウンロードファイルの種類>

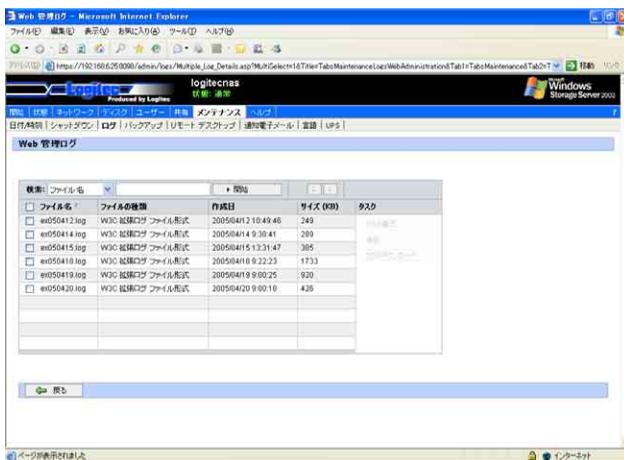
- ・ Microsoft Windows イベントログファイル(*.evt)
- ・ テキスト(タブ区切り)(* .log)
- ・ テキスト(コンマ区切り)(* .csv)

ファイルの処理方法をたずねるダイアログが現れますので、「このファイルをディスクに保存する(S)」ラジオボタンをチェックし、「OK」をクリックします。
続いてファイルの保存先をたずねるダイアログが現れますので、任意のフォルダに保存します。

○ログの消去

この項目のログを全て削除したいときは「ログの消去」をクリックします。一端削除したログは復旧することは出来ません。

【Web 管理ログ、Web(HTTP)共有ログ、FTP ログの管理方法】



・ファイル名：

1日ごとにアクセスに対するログが作成されています。アクセスの無かった日にはログは生成されません。

・ファイルの種類：

「W3C Extended Log File Format」は Web/FTP 用のログファイル形式を示しています。

・作成日：

ログが作成された日付が表示されています。

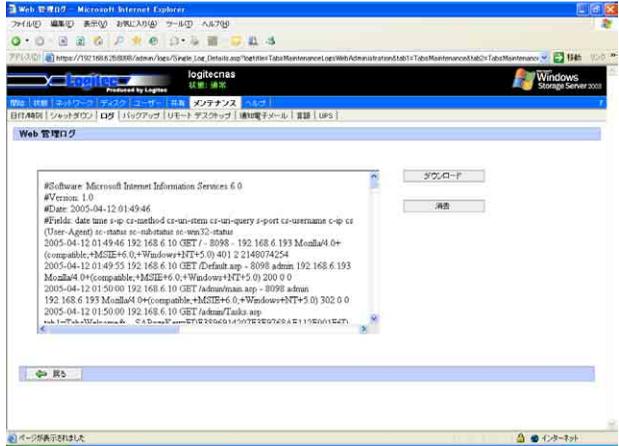
・サイズ：

ログのサイズが表示されています。

■実行可能なタスク

○ログの表示

ログの内容を閲覧するときは、閲覧したい日付のログのチェックボックスを一つだけチェックし、「ログの表示」をクリックします。Web管理ログメニューが現れますので、テキストボックス内のログを確認してください。



このログをダウンロードするときは、「ダウンロード」をクリックし、ログを消去する場合は、「消去」をクリックします。「ダウンロード」をクリックするとファイルの処理方法を求めるダイアログが現れますので、「このファイルをディスクに保存する(S)」ラジオボタンをON(●)にし、「OK」をクリックします。続けてファイルの保存先を求めるダイアログが現れますので、任意のフォルダに保存します。

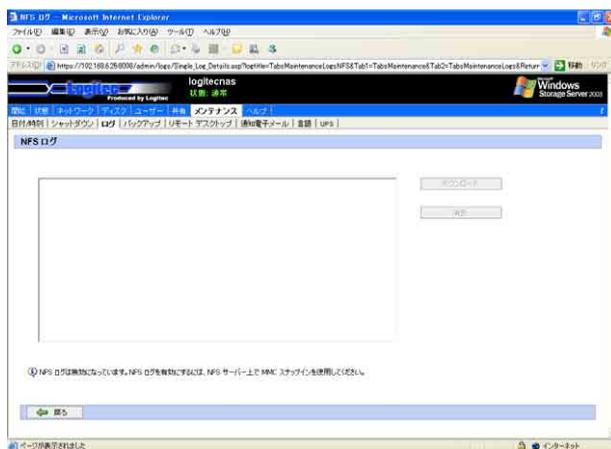
○消去

ログを消去するときは、消去したい日付のログのチェックボックスをチェックし、「消去」をクリックします。全てのログを消去する場合は「ファイル名」の横にあるチェックボックスをチェックすると全てが選択されます。

○ログのダウンロード

ログをダウンロードするときは、ダウンロードしたい日付のログのチェックボックスを一つだけチェックし、「ログのダウンロード」をクリックします。「ログのダウンロード」をクリックするとファイルの処理方法を求めるダイアログが現れますので、「このファイルをディスクに保存する(S)」ラジオボタンをON(●)にし、「OK」をクリックします。ファイルの保存先を求めるダイアログが現れますので、任意のフォルダに保存します。

【NFS ログの管理方法】



・ダウンロード

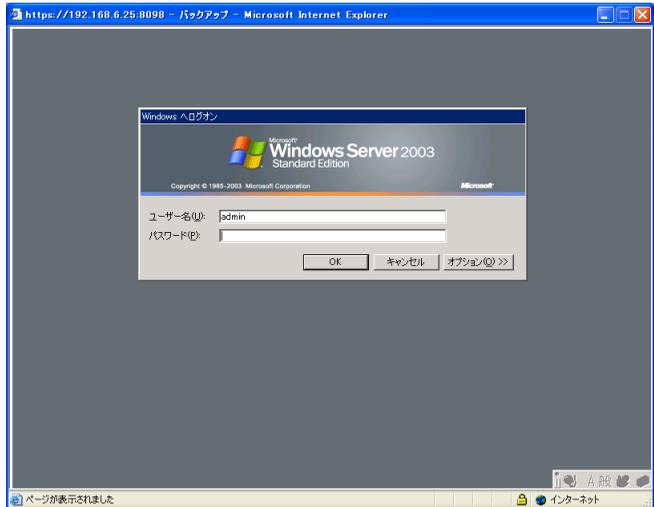
表示されているログをファイルにダウンロードするには、「ダウンロード」をクリックします。「ダウンロード」をクリックするとファイルの処理方法を求めるダイアログが現れますので、「このファイルをディスクに保存する(S)」ラジオボタンをON(●)にし、「OK」をクリックします。続けてファイルの保存先を求めるダイアログが現れますので、任意のフォルダに保存します。

・消去

ログを消去したいときは「消去」をクリックします。

3. 8. 4 バックアップ

ここではバックアップユーティリティでシステム、データのバックアップが行えます。この項目は管理画面 Web UI 上からターミナルクライアントサービスを利用して本製品にアクセスしています。選択後ユーザー名とパスワードをダイアログが要求しますので、管理者のユーザー名とパスワードを入力して「OK」ボタンをクリックしてください。



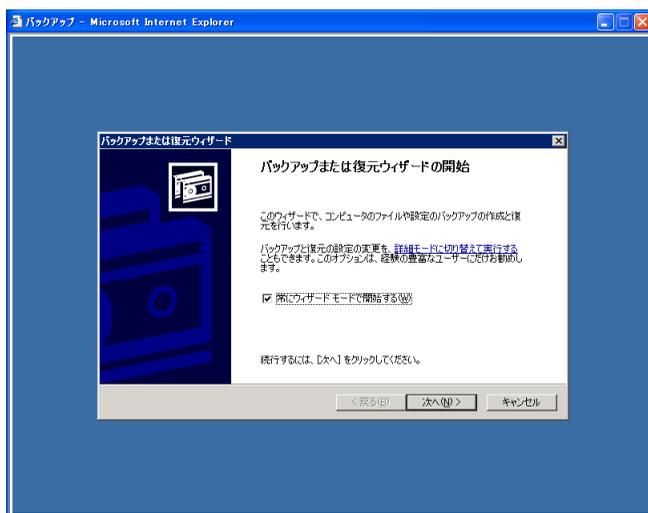
ログオン後、「バックアップまたは復元ウィザード」が起動します。



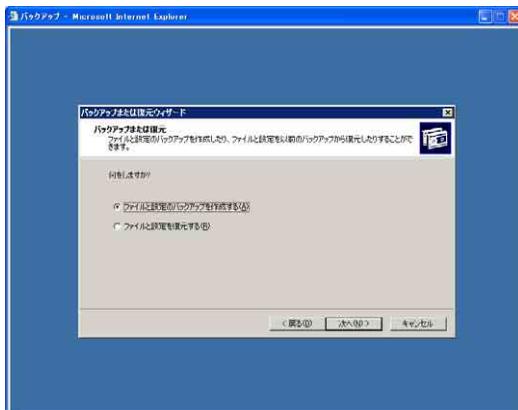
ご注意

- ・web UIにログインする際にIPアドレスにてログインしている場合、ウィザードは表示されません。
IPアドレスの代わりにNASのホスト名を使用して再度ログインしてください。
- <例> https://192.168.1.1:8098 →×
https://logitecnas:8098 →○

○バックアップウィザード



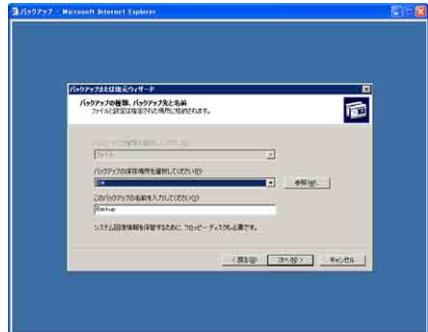
「バックアップウィザード」をクリックすると説明ダイアログが表示されますので、「次へ(N)>」をクリックします。



バックアップを作成する項目を選択します。選択する項目のラジオボタンをON(●)にして「次へ(N)>」をクリックします。

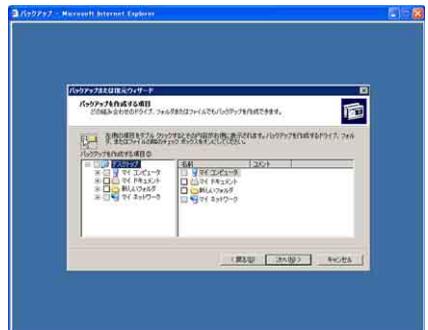
・コンピュータ上の全てのファイルのバックアップを作成する場合：

バックアップメディアの種類、バックアップを格納するメディア名/ファイル名を設定し、「次へ(N)>」をクリックします。確認画面が現れますので、「完了」を押してバックアップを開始します。



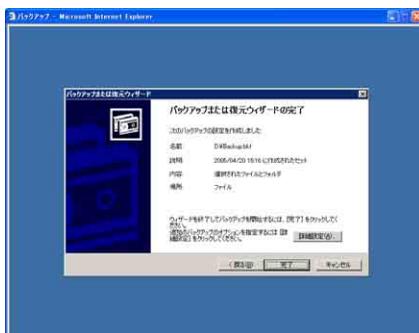
・選択したファイル、ハードディスク、ネットワークデータのみのバックアップを作成する場合

バックアップを作成する項目を設定します。本製品のローカルディスクのツリー構成が表示されますので、バックアップするボリューム/フォルダのチェックボックスにチェックします。



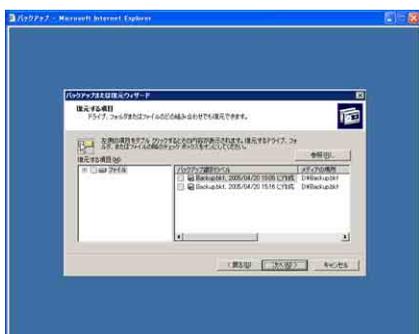
全てチェックが終わり「次へ(N)>」をクリックすると、バックアップの格納場所の画面が表示されます。バックアップメディアの種類、バックアップを格納するメディア名/ファイル名を設定し、「次へ(N)>」をクリックします。確認画面が現れますので、「完了」を押してバックアップを開始します。

- ・システム状態データのためのバックアップを作成する場合
バックアップメディアの種類、バックアップを格納するメディア名/ファイル名を設定し、「次へ(N)>」をクリックします。確認画面が現れますので、「完了」を押してバックアップを開始します。



○復元ウィザード

「復元ウィザード」をクリックすると説明ダイアログが表示されますので、「次へ(N)>」をクリックします。

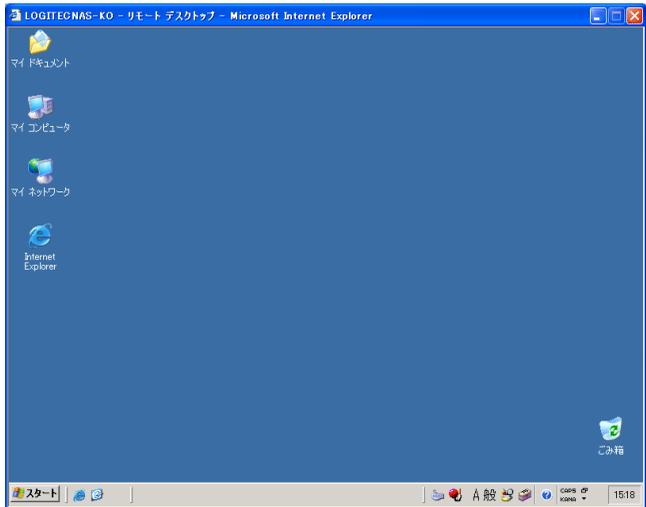


復元する項目を選択します。選択する項目のチェックボックスをチェックして「次へ(N)>」をクリックします。確認画面が現れますので、「完了」をクリックして復元を開始します。

3. 8. 5 リモートデスクトップ

ここでは、本製品の管理画面 Web UI 上では設定しきれない所をターミナルサービスを使って設定することができます。

この項目は管理画面 Web UI 上からターミナルクライアントサービスを利用して本製品にアクセスしています。選択後ユーザー名とパスワードをダイアログが要求しますので、管理者のユーザー名とパスワードを入力して「OK」ボタンをクリックしてください。ターミナルサービスウィンドウに Windows Server2003 のシステム画面が表示されます。通常の Windows Server2003 システムの設定方法で各種の設定が可能です。



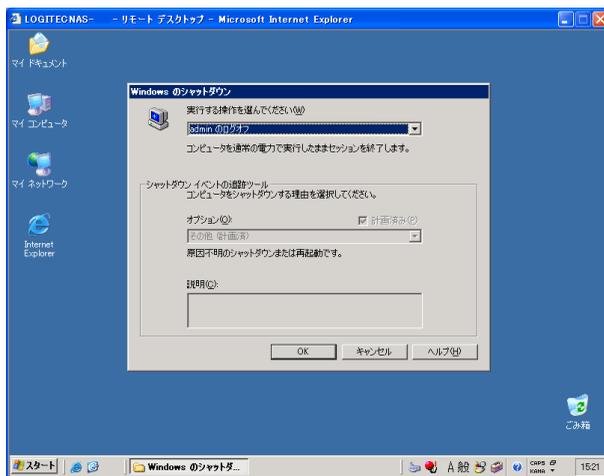
また、ウィルス駆除ソフトなどを本製品にインストールする際には、このターミナルサービスを使いインストールしてください。



重要なお注意

- ・ターミナルサービスクライアントからは、ネットワークやシステムの設定は行わないでください。操作によっては本製品にアクセスできなくなるおそれがあります。十分にご注意ください。

ターミナルサービスクライアントを終了するときは「スタート」ボタン-「シャットダウン」-「(管理者名)のログオフ」-「OK」の順序でクリックしてください。

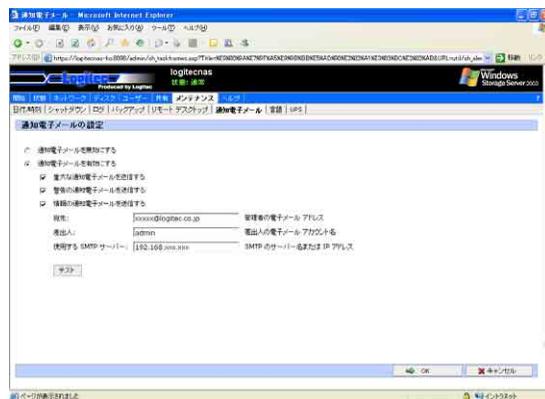


ご注意

- ・ターミナルクライアントからのシャットダウン処理や再起動は行わないでください。装置自体が再起動されます。

3. 8. 6 通知電子メール

ここでは障害発生時にE-mailでの障害通知について設定できます。



- ① 障害発生時にE-mailで障害を通知する場合は「通知電子メールを有効にする」ラジオボタンをON(●)にし、メール送信するイベントのレベルチェックボックスで設定します。
- ② 配信先のE-mailアドレスを「宛先：」のテキストボックス欄に入力します。
- ③ 配信に使用するSMTPサーバーを「使用するSMTPサーバー：」のテキストボックス内にIPアドレスかサーバー名で入力します。
- ④ 「テスト」をクリックして宛先のE-mailアドレスにテストメールが届くかチェックします。

全ての設定ができたなら「OK」をクリックします。



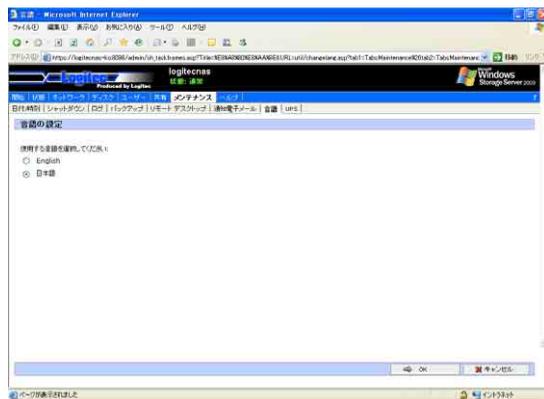
ご注意

- ・通知電子メールを日本語で送る場合、UTF-8形式の文字コードで送信されます。UTF-8形式の文字コードが処理できない環境に送信すると文字化けしますので、「3. 8. 8 言語」の項目で言語環境を英語に設定してください。配信メールが英語になり、文字化けが無くなります。

3. 8. 7 言語

3

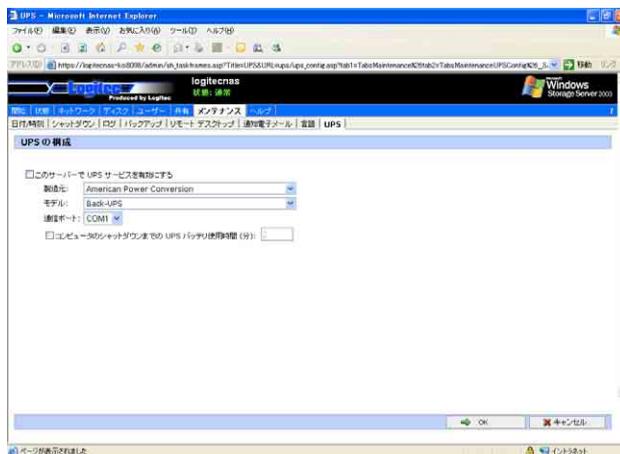
管理画面 Web UI で使用する言語を設定します。



英語と日本語が設定できますが、特に問題がなければ「日本語」のラジオボタンをON(●)にしてください。尚、設定を変更した際は「OK」をクリックして変更を確定してください。

3. 8. 8 UPS

UPS(無停電電源ユニット)を使用する際の設定をします。



- ・ 製造元 : UPS の製造元メーカーを指定します。
※出荷時はAPC社(American Power Conversion社)しか
選択できません。
- ・ モデル : UPS のモデル名を指定します。
- ・ 通信ポート : UPS と接続しているシリアルポートを設定します。
本製品では必ずCOM1ポートに指定してください。

※UPSとの通信が正常に行えない場合は、4.2トラブルシューティングを
参照してください。

3.9 ヘルプメニュー

このメニューでは、本製品の OS Microsoft Windows Storage Server 2003 についてのヘルプファイルが開覧できます。



3

また、各項目でナビゲーションバーの右端にある「？」をクリックするとその項目でのヘルプトピックが表示されます。



第4章

Windows Updateによるセキュリティパッチのインストール

4.1 「Windows Storage Server 2003 搭載モデルのアップデートについて

本製品は、Windows Storage Server 2003を搭載しているためインターネットを利用してWindows Updateを行なうことによりセキュリティパッチのインストールを含めOSのアップデートを行なうことが出来ます。

セキュリティ対策の一環として定期的にWindows Updateを行なうことによって最新の状態を保つことをお勧めします。



ご注意

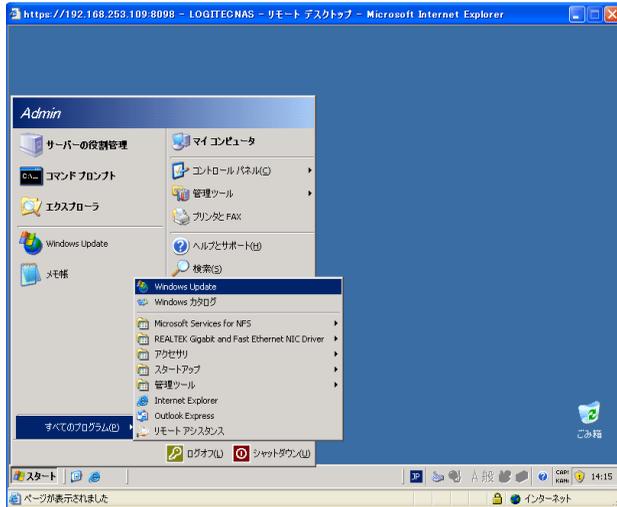
- ・ インターネット接続が出来る環境が必要です。
- ・ 本製品の再起動が必要な場合があります。
- ・ アップデート中はクライアントパソコンからのアクセスは行わないでください。

○手順

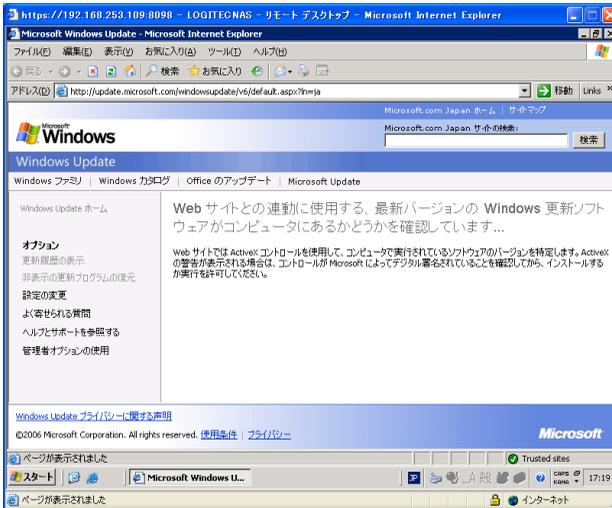
1. クライアントパソコンよりWEB UIを開きます。
2. 「メンテナンス」メニュー内の「リモートデスクトップ」をクリックし、リモートデスクトップを開きます。



3. リモートデスクトップより「スタート」-「全てのプログラム」-「Windows Update」の順でクリックします。



4. 自動的に Internet Explorer が起動し Microsoft のサイトへ接続します。
※インターネットへ接続できない環境では実行できません。

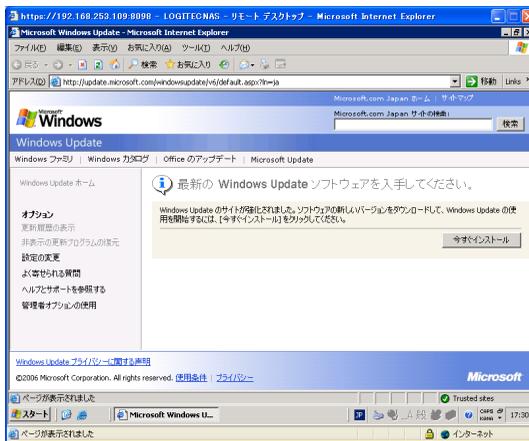


4

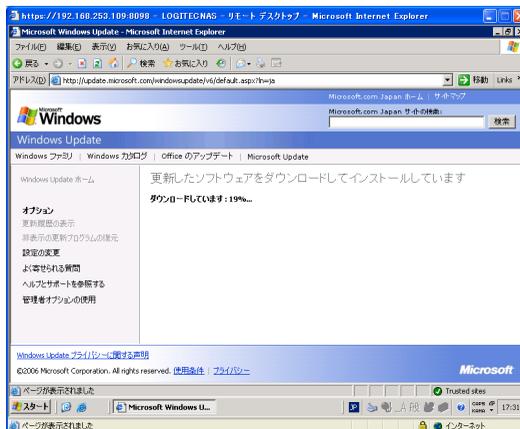
5. 最初に Windows Update を実行した場合、以下の確認画面が表示されますので「インストールする」をクリックします。



6. 以下の確認画面が表示された場合は「今すぐインストール」をクリックします。

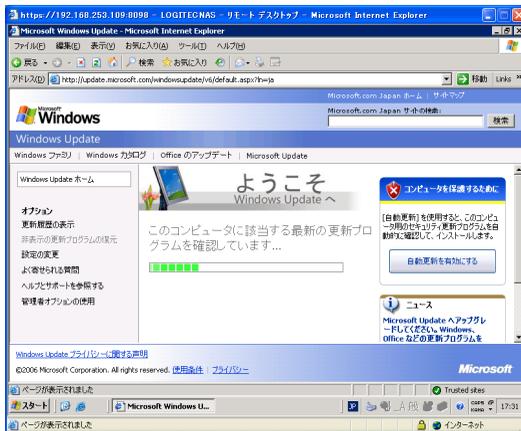


7. 「WindowsUpdate プログラム」がインストールされます。



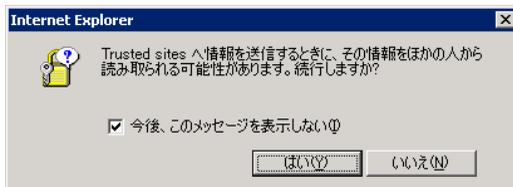
4

8. 次の画面が表示されますので「高速」ボタンをクリックします。



4

9. 次のメッセージが表示される場合がありますが「はい」をクリックします。



10. 更新プログラムの確認とインストール画面が表示されますので「更新プログラムのインストール」ボタンをクリックしインストールを開始します。



11. 再起動を要求された場合は、本製品の再起動を実行してください。
12. 以上で、Windows Update によるセキュリティパッチの適用は終了です。

適用されたセキュリティパッチを確認するためには、リモートデスクトップ上から「コントロールパネル」内の「プログラムの追加と削除」にて確認できます。

第5章 補足事項

5.1 使用できる文字について

本製品で使用できるファイル名やユーザー名は下記の通りになります。これ以外の文字を使用すると、本製品の動作に支障が及ぶ場合がありますのでご注意ください。

●ユーザー名

半角 20 文字以内

記号「? [] | ; : " , < > ! ¥ / + * 」は使えません。

英字の大文字、小文字は、区別しません。

全角文字は使用しないでください。

●グループ名

半角 256 文字以内

記号「? [] | ; : " , < > ! ¥ / + * 」は使えません。

英字の大文字、小文字は、区別しません。

全角文字は使用しないでください。

●ホスト名(コンピュータ名、サーバー名)

半角 14 文字以内

半角アルファベット (A～Zの英字) と、数字(0～9)、- (ハイフン) の 39 文字。

英字の大文字、小文字は、区別しません。

15 文字を超えるコンピュータ名を指定して、これを Active Directory ドメインで認識させる場合、ドメインの管理者は 16 バイト以上の DNS 名の登録を有効にしなければなりません。

●パスワード

14 文字以内

半角アルファベット (A～Z a～z) と、数字 (0～9)、記号 (` ~ ! @ # \$ % ^ & * () _ + - = { } | [] ¥ : " ; ' < > ? , . /) 。

大文字、小文字を区別します。

●共有名

12 文字以内

半角アルファベット (A～Zの英字) と、0～9の数字、

あと、_ (アンダースコア) の 39 文字種が使用可能です。

英字の大文字、小文字は、区別しません

クライアント OS により異なりますが、基本的に記号(¥ / ; ; * ? " < > |) は使えません。また、全角文字は OS によりアクセスできない場合がありますのでおすすめでできません。

5.2 トラブルシューティング

- Web UI へアクセスできない場合がある / アクセスが非常に遅い
 - ・同セグメントの Ethernet 上に本製品と同じホスト名(サーバー名)のデバイスがありませんか？
もし、ある場合はホスト名(サーバー名)を変更してください。
- いつまで経ってもシステムが起動しない
 - ・ディスクアクセスが無くいつまでもシステムが起動しない場合は、前面の電源スイッチで電源を一端 OFF した後、再度 10 秒程度時間を置いてから電源を ON してください。
- パスワードを忘れてしまった
 - ・ユーザパスワードの場合、管理者が管理画面 Web UI でユーザー項目のローカルユーザーメニューの中のパスワードの設定でパスワードを再登録してください。
 - ・管理者のパスワードを忘れた場合には管理 Web UI 画面にアクセスできなくなります。修正するには、お客様にてデータをバックアップ後弊社にお送りいただき、出荷時状態にてお戻し致します。(有償)
 - ※ この作業はオンサイト保守の対象外となりますので、管理者パスワードの管理には十分ご注意ください。
- フォルダ / ファイルが削除できない
 - ・フォルダ / ファイルの属性の「読み取り専用」にチェックが付いていませんか？付いている場合はチェックを外してください。
 - ・削除しようとしているフォルダは共有ボリュームではないですか？共有ボリュームの場合は共有設定を解除してからフォルダを削除してください。
- Macintosh クライアントにファイルを転送できない。
 - ・転送するファイルの容量が 2GB を越えていませんか？本製品では Macintosh クライアントに対して 2GB 以上のファイルの転送をサポートしておりません。ご注意ください。
- UPS 使用時の注意点は
 - ・本製品への電源供給が停止してから再開するまでの時間が短いと正常に起動しない場合がありますので、そのようなことがないような設定にしてください。

5.3 アプリケーションのインストール

ウィルス検知ソフトウェアなど、ネットワークストレージを運用する上で必要なソフトウェアを本製品にインストールする際は、「メンテナンス」メニューの中の「リモートデスクトップ」をご利用ください。

※アプリケーションが Windows Storage Server 2003 に対応している必要があります。

①クライアント PC(Windows マシン)の CD-ROM ドライブにアプリケーション CD を挿入する。

②クライアント PC の CD-ROM を共有に設定する。



③本製品のリモートデスクトップより②で共有設定した CD-ROM をネットワークドライブに設定する。



④③で登録したネットワークドライブよりアプリケーションをインストールする。



ご注意

- ・アプリケーションによっては、この方法でインストールできない場合があります。

5.4 UPS との接続が出来ない場合の対処方法

I 事前確認(準備)

UPSとNASを接続する場合にUPS側のシリアルポートをどのポートを使うかによって使用するケーブルが異なります。

使用用途(使用するポート) に合わせたシリアルケーブルの選択が必要になります。

・UPSの標準ポート(アドバンスポート)を使用し、NASと接続した場合
→ Interface Kit C をご使用ください。

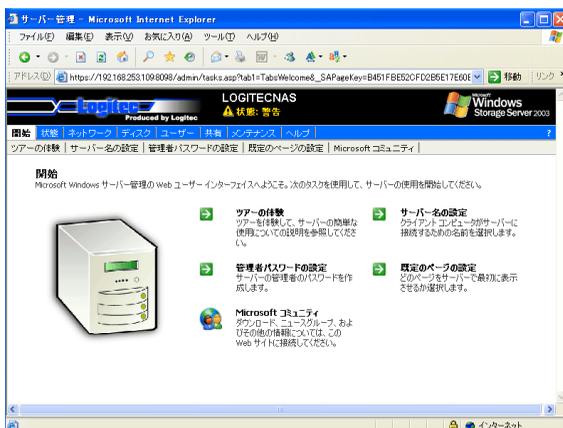
・UPSの拡張ボードを使用し、NASと接続した場合
→ Interface Kit A をご使用ください。

上記のことを確認して頂き、適切なシリアルケーブルを使用しているかご確認ください。

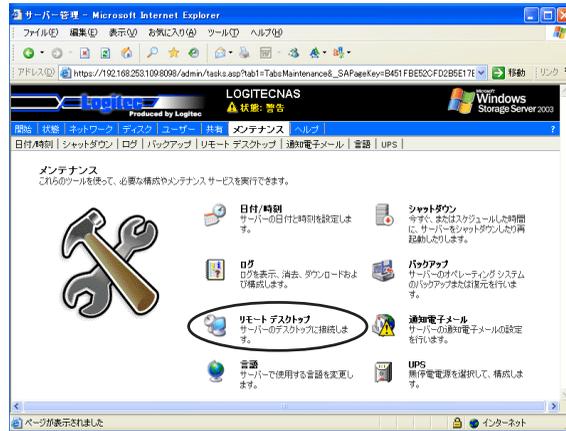
II 設定手順

1. WEB 管理画面にログインする。

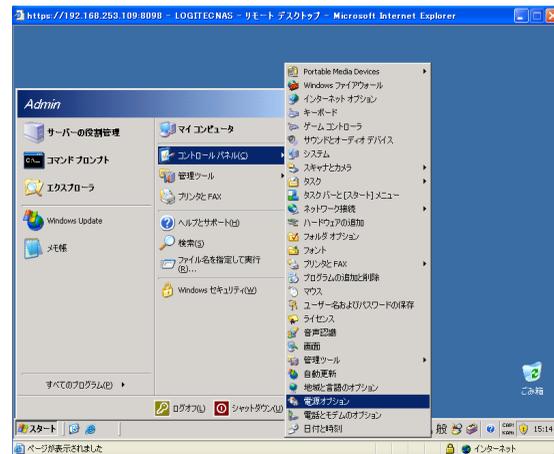
2. メニューから「メンテナンス」をクリックする。



3. メンテナンスメニューから「リモートデスクトップ」をクリックする。



4. リモートデスクトップにログインしスタートメニューより、「スタート」-「コントロールパネル」-「電源オプション」の順にクリックする。



5. 電源オプションプロパティにて「UPS」タグを選択し、「選択」ボタンをクリックする。



6. UPS の選択画面にて「製造元の選択」にて「American Power Conversion」ポートを「COM1」、モデルの選択にて「Smart-UPS」を選択し、「完了」ボタンを押します。



7. 上記 6 項目の画面にて「構成」ボタンを押します。
ここで正常にUPSが認識できていれば接続は完了です。

Windows Storage Server ソフトウェアマニュアル WSS_SOFT.V02

2006年 6月初版



本社/東京 テクニカルサポート・伊那工場/長野県伊那市
